



日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

#3

紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
事項と同一であることを証明する。

is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
his Office.

願 年 月 日

of Application:

1996年12月27日

願 番 号

ication Number:

平成 8年特許願第350323号

願 人

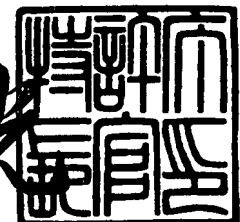
ant (s):

カシオ計算機株式会社

1997年 8月22日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

荒井 寿光



出証番号 出証特平09-3066186

【書類名】 特許願

【整理番号】 96-1433-00

【提出日】 平成 8年12月27日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04B 7/26
G10L 3/00
G06F 7/22

【発明の名称】 移動端末音声認識／電子メール・FAX作成送信システム

【請求項の数】 7

【発明者】
【住所又は居所】 東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ計算機株式会社
社羽村技術センター内

【氏名】 山北 徹

【特許出願人】
【識別番号】 000001443
【氏名又は名称】 カシオ計算機株式会社
【代表者】 桎尾 和雄

【代理人】
【識別番号】 100093632
【弁理士】
【氏名又は名称】 阪本 紀康
【電話番号】 03-3238-0058

【手数料の表示】
【予納台帳番号】 012900
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9004585

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 移動端末音声認識／電子メール・FAX作成送信システム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 移動端末がホスト装置と通信する通信システムであって、
前記移動端末内に、

無線網又は有線網の何れか一方又は両方から構成される中継網を介して間接的に又は該中継網を介さずに直接的に前記ホスト装置である音声制御ホスト装置に接続するホスト接続手段と、

音声を入力する音声入力手段と、

前記ホスト接続手段による接続動作の後、前記音声入力手段から入力される音声データを前記音声制御ホスト装置に送信する音声データ送信手段と、

前記音声制御ホスト装置から返信される電子メール又はFAX草稿データを受信する電子メール・FAX草稿データ受信手段と、

該受信された電子メール又はFAX草稿データを表示又は編集する電子メール・FAX草稿データ表示／編集手段と、

該編集によって得られた清書データである電子メール又はFAXデータの送信を前記音声制御ホスト装置に依頼する電子メール・FAXデータ送信手段と、

を含み、

前記音声制御ホスト装置内に、

前記移動端末内のホスト接続手段による接続動作に応答して、前記移動端末を識別して接続する移動端末接続手段と、

現在接続されている移動端末毎に、前記音声データを受信する音声データ受信手段と、

現在接続されている移動端末毎に、前記音声データ受信手段により受信された音声データに対して音声認識処理を実行する音声認識手段と、

現在接続されている移動端末毎に、前記音声認識手段による音声認識処理によって得られる認識音声データ中のフィールドを判別することにより、該認識音声データの内容を表わす電子メール又はFAX草稿データを作成する電子メール・FAX草稿データ作成手段と、

現在接続されている移動端末毎に、前記電子メール・FAX草稿データ作成手段によって作成される電子メール又はFAX草稿データを、それに対応する移動端末に返信する電子メール・FAX草稿データ返信手段と、

現在接続されている移動端末毎に、清書データである電子メール又はFAXデータを受信し、それらを宛て先に配信する電子メール・FAX配信手段と、
を含む、

ことを特徴とする移動端末音声認識／電子メール・FAX作成送信システム。

【請求項2】 移動端末がホスト装置と通信する通信システムに使用される前記移動端末であって、

無線網又は有線網の何れか一方又は両方から構成される中継網を介して間接的に又は該中継網を介さずに直接的に前記ホスト装置である音声制御ホスト装置に接続するホスト接続手段と、

音声を入力する音声入力手段と、

前記ホスト接続手段による接続動作の後、前記音声入力手段から入力される音声データを前記音声制御ホスト装置に送信する音声データ送信手段と、

前記音声制御ホスト装置から返信される電子メール又はFAX草稿データを受信する電子メール・FAX草稿データ受信手段と、

該受信された電子メール又はFAX草稿データを表示又は編集する電子メール・FAX草稿データ表示／編集手段と、

該編集によって得られた清書データである電子メール又はFAXデータの送信を前記音声制御ホスト装置に依頼する電子メール・FAXデータ送信手段と、

を含むことを特徴とする移動端末。

【請求項3】 移動端末がホスト装置と通信する通信システムに使用される前記ホスト装置であって、

無線網又は有線網の何れか一方又は両方から構成される中継網を介して間接的に又は該中継網を介さずに直接的に前記移動端末が実行する接続動作に応答して、前記移動端末を識別して接続する移動端末接続手段と、

現在接続されている移動端末毎に、音声データを受信する音声データ受信手段と、

現在接続されている移動端末毎に、前記音声データ受信手段により受信された音声データに対して音声認識処理を実行する音声認識手段と、

現在接続されている移動端末毎に、前記音声認識手段による音声認識処理によって得られる認識音声データ中のフィールドを判別することにより、該認識音声データの内容を表わす電子メール又はFAX草稿データを作成する電子メール・FAX草稿データ作成手段と、

現在接続されている移動端末毎に、前記電子メール・FAX草稿データ作成手段によって作成される電子メール又はFAX草稿データを、それに対応する移動端末に返信する電子メール・FAX草稿データ返信手段と、

現在接続されている移動端末毎に、清書データである電子メール又はFAXデータを受信し、それらを宛て先に配信する電子メール・FAX配信手段と、
を含むことを特徴とする音声制御ホスト装置。

【請求項4】 前記移動端末は、パーソナルハンディホンシステム通信機能を備え、

前記中継網は、パーソナルハンディホンシステム通信網とインターネットを含み、

前記音声制御ホスト装置は、前記インターネットに接続し、

前記移動端末内のホスト接続手段は、前記パーソナルハンディホンシステム通信網を介して、該パーソナルハンディホンシステム通信網を含む公衆網と前記インターネットとの間のゲートウェイ機能を有する移動端末制御ホスト装置に発信し接続することによって、前記インターネット上の通信プロトコルを使用して、前記移動端末制御ホスト装置から前記インターネットを介して前記音声制御ホスト装置に接続する、

ことを特徴とする請求項1乃至3の何れか1項に記載の移動端末音声認識／電子メール・FAX作成送信システム、移動端末、又は音声制御ホスト装置。

【請求項5】 前記通信プロトコルは、インターネットプロトコル層及びトランスミッションコントロールプロトコル層を含む階層プロトコルであって、

前記インターネット上を伝送される前記インターネットプロトコル層のパケットデータであるインターネットプロトコルデータグラムのヘッダフィールドには

、前記インターネット上での前記移動端末及び前記音声制御ホスト装置のアドレスを指定する送信元インターネットプロトコルアドレス及び宛先インターネットプロトコルアドレスが格納され、該インターネットプロトコルデータグラムのデータフィールドには、前記トランスミッションコントロールプロトコル層の packets データであるトランスミッションコントロールプロトコルセグメントが格納され、

前記トランスミッションコントロールプロトコルセグメントのヘッダフィールドには、前記音声認識／電子メール・FAX作成処理のための通信プロトコルを特定する送信元ポート番号及び宛先ポート番号が格納され、該トランスミッションコントロールプロトコルセグメントのデータフィールドには、前記移動端末を識別するための端末識別コード、前記音声データ、前記電子メール又はFAX草稿データ、或いは、清書データである前記電子メール又はFAXデータが格納される、

ことを特徴とする請求項4に記載の移動端末音声認識／電子メール・FAX作成送信システム、移動端末、又は音声制御ホスト装置。

【請求項6】 前記音声制御ホスト装置は、網によって相互に接続され、前記移動端末接続手段、前記音声データ受信手段、前記音声認識手段、前記電子メール・FAX草稿データ作成手段、前記電子メール・FAX草稿データ返信手段、及び前記電子メール・FAX配信手段に対応する機能を分散して実現する複数のホストコンピュータから構成される、

ことを特徴とする請求項1乃至5の何れか1項に記載の移動端末音声認識／電子メール・FAX作成送信システム、移動端末、又は音声制御ホスト装置。

【請求項7】 前記電子メール・FAX草稿データ作成手段は、現在接続されている移動端末毎に、前記音声認識手段による音声認識処理によって得られる認識音声データに含まれるフィールドを認識すると共に、不要語を削除して、前記電子メール又はFAX草稿データを作成する、

ことを特徴とする請求項1乃至6の何れか1項に記載の移動端末音声認識／電子メール・FAX作成送信システム、移動端末、又は音声制御ホスト装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、移動（携帯）端末装置において入力された通話音声等の音声を認識しその認識結果に基づきフォーマット化された文章である電子メール又はFAXを作成し送信する技術に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

音声信号を認識して、文字データに変換して蓄積したり、認識結果を種々のサービスの利用に供したりするための音声認識技術は、様々な産業分野で従来から要請されている。

【0003】

近年では、音声認識アルゴリズムの発達により、メインフレームコンピュータ又はワークステーションコンピュータ等を用いた音声認識システムが開発されている。

【0004】

これらのシステムは、例えば、電話音声を入力とする銀行の残高照会システムや座席予約システム、作業員の音声を認識して荷物の自動配送を行う配送荷物の仕分システムを始めとして、種々の産業分野に取り入れられつつある。

【0005】

しかし、このような音声認識システムは、上述のような大規模なコンピュータシステムの環境のもとでようやく実用的な認識精度を有するレベルに到達したばかりであり、いわゆるパーソナルコンピュータのような小型のコンピュータシステム環境のもとでは、実用的な認識精度を有する安価な音声認識システムは未だ実現されていないのが現状である。

【0006】

一方、上述のような情報処理技術と並行して、近年、自動車電話・携帯電話やPHS（パーソナルハンディホンシステム）等の移動端末が、急速に普及しつつある。

【0007】

特に、PHSは、小型であると同時に、自動車電話・携帯電話に比較して通話料金が安く、かつ、「いつでも、どこでも、誰とでも」高い品質で通話ができるという特徴を備えており、爆発的に普及しつつある。更に、PHSは、ISDN (Integrated Services Digital Network:サービス統合デジタル網) をバックボーンとする公衆網であるため、32キロボット/秒の伝送レートでの高速デジタル通信が可能であり、マルチメディア通信分野への応用に対する期待も高まっている。

【0008】

更には、移動端末の利便性をいかすべく、携帯電話装置としてだけでなく、携帯情報管理装置としても利用できるような、マルチメディア情報管理/通信端末装置としての実現の可能性も期待されている。具体的には、このような移動端末は、通話機能/FAX機能を備えることはもちろん、インターネットや社内ネットワークへのアクセス機能としてのホームページアクセス機能や電子メール通信機能を備えることが予想されるほか、アドレス管理、スケジュール管理、メモ管理、データベース検索等の情報管理機能をも兼ね備えることが期待される。

【0009】

そして、このような移動端末は、人が気軽に利用できるよう、できる限り人にやさしく自然なユーザインタフェースを備えることが要請される。現在実現されているユーザインタフェースとしては、キーボードやマウスによる指操作入力、電子ペンによる手書き入力等が実用化されているが、音声入力等にも対応することができれば、ユーザインタフェースとして理想的である。即ち例えば、基本機能としての通話機能を利用しながら通話内容を示す音声信号をデータとして、アドレス入力、スケジュール入力、メモ入力等のほか、電子メール作成/送信、FAX作成/送信等が可能になれば、移動端末の利便性を飛躍的に増大させることが可能になる。ここに、移動端末に対してユーザインタフェースとして音声認識機能を適用することの価値を見出すことができる。

【0010】

しかし、移動端末は小型でありその情報処理能力は限られている反面、前述したように、現在の音声認識処理では、メインフレームコンピュータ又はワークス

ーションコンピュータクラス的环境のもとでないと、実用的な認識精度を実現することは困難である。従って、現状では、移動端末のユーザインタフェースとして音声認識機能を実現することは非常に困難である、という問題点を有している。

【0011】

本発明の課題は、移動端末を用いた通信環境において、そのユーザインタフェースとしての音声認識機能を実用的な精度及びコストで実現し、その認識結果に基づいてフォーマット化された文章である電子メール又はFAXの作成／送信を可能にすることにある。

【0012】

【課題を解決するための手段】

本発明はまず、以下の構成を含む移動端末を有する。

即ち、ホスト接続手段（制御部110、通信部111）は、無線網又は有線網の何れか一方又は両方から構成される中継網（PHS網103とインターネット105）を介して間接的に又はその中継網を介さずに直接的にホスト装置である音声制御ホスト装置（音声制御ホスト装置108）に接続する。

【0013】

音声入力手段（入力部109）は、音声を入力する。

音声データ送信手段（制御部110、通信部111）は、ホスト接続手段による接続動作の後、音声入力手段から入力される音声データを音声制御ホスト装置に送信する。

【0014】

電子メール・FAX草稿データ受信手段（制御部110、通信部111）は、音声制御ホスト装置から返信される電子メール又はFAX草稿データを受信する。

【0015】

電子メール・FAX草稿データ表示／編集手段（制御部110、出力部112）は、その受信された電子メール又はFAX草稿データを表示又は編集する。

電子メール・FAXデータ送信手段（制御部110、通信部111）は、編集

によって得られた清書データである電子メール又はFAXデータの送信を音声制御ホスト装置に依頼する。

【0016】

次に、本発明は、以下の構成を含む音声制御ホスト装置108を有する。

即ち、移動端末接続手段（パケット送受信部115、移動端末通信制御部116）は、移動端末内のホスト接続手段による接続動作に応答して、移動端末を識別して接続する。

【0017】

音声データ受信手段（パケット送受信部115、移動端末通信制御部116）は、現在接続されている移動端末毎に、音声データを受信する。

音声認識手段（移動端末通信制御部116、文音声認識部117）は、現在接続されている移動端末毎に、音声データ受信手段により受信された音声データに対して音声認識処理を実行する。

【0018】

電子メール・FAX草稿データ作成手段（フォーマット文章作成部118）は、現在接続されている移動端末毎に、音声認識手段による音声認識処理によって得られる認識音声データ中のフィールドを判別することにより、その認識音声データの内容を表わす電子メール又はFAX草稿データを作成する。この電子メール・FAX草稿データ作成手段は、例えば、現在接続されている移動端末毎に、音声認識手段による音声認識処理によって得られる認識音声データに含まれるフィールドを認識すると共に、不要語を削除して、電子メール又はFAX草稿データを作成する。

【0019】

電子メール・FAX草稿データ返信手段（移動端末通信制御部116、パケット送受信部115）は、現在接続されている移動端末毎に、電子メール・FAX草稿データ作成手段によって作成される電子メール又はFAX草稿データを、それに対応する移動端末に返信する。

【0020】

電子メール・FAX配信手段（メール送受信部119、FAX送受信部120

）は、現在接続されている移動端末毎に、清書データである電子メール又はFAXデータを受信し、それらを宛て先に配信する。

【0021】

以上の移動端末と音声制御ホスト装置を含む本発明による通信移動端末音声認識／電子メール・FAX自動作成通信システムによって、移動端末は、高度な音声認識／電子メール・FAX自動作成環境を設備する必要がなく実用的な精度を有する音声認識／電子メール・FAX自動作成機能の提供を低コストで受けることができる。

【0022】

上述の発明の構成は、下記の限定を含むことができる。

即ち、まず、移動端末は、パーソナルハンディホンシステム通信機能（通信部111）を備える。

【0023】

次に、中継網は、パーソナルハンディホンシステム通信網（PHS網103）とインターネット（インターネット105）を含む。

また、音声制御ホスト装置は、インターネットに接続する。

【0024】

そして、移動端末内のホスト接続手段は、パーソナルハンディホンシステム通信網を介して、そのパーソナルハンディホンシステム通信網を含む公衆網とインターネットとの間のゲートウェイ機能を有する移動端末制御ホスト装置（移動端末制御ホスト装置104）に発信し接続することによって、インターネット上の通信プロトコルを使用して、移動端末制御ホスト装置からインターネットを介して音声制御ホスト装置に接続する。

【0025】

この限定構成によって、現在全国的及び全世界的に普及しつつあるパーソナルハンディホンシステム通信網及びインターネットを経由することにより、実用的な精度を有する音声認識機能の提供をより低コスト及び手軽に受けることができると同時に、本発明が提供する機能とパーソナルハンディホンシステム通話機能及びインターネットアクセス機能とを、シームレスに結合することができる。

【0026】

更に、上述の通信プロトコルは、下記の限定を含むことができる。

即ち、上記通信プロトコルは、インターネットプロトコル（IP）層及びトランスミッションコントロールプロトコル（TCP）層を含む階層プロトコルである。

【0027】

次に、インターネット上を伝送されるインターネットプロトコル層のパケットデータであるインターネットプロトコルデータグラム（IPデータグラム）のヘッダ（IPヘッダ）フィールドには、インターネット上での移動端末及び音声制御ホスト装置のアドレスを指定する送信元インターネットプロトコルアドレス及び宛先インターネットプロトコルアドレスが格納され、そのインターネットプロトコルデータグラムのデータフィールドには、トランスミッションコントロールプロトコル層のパケットデータであるトランスミッションコントロールプロトコルセグメントが格納される。

【0028】

また、トランスミッションコントロールプロトコルセグメント（TCPセグメント）のヘッダ（TCPヘッダ）フィールドには、音声認識／電子メール・FAX自動作成処理のための通信プロトコルを特定する送信元ポート番号及び宛先ポート番号が格納され、そのトランスミッションコントロールプロトコルセグメントのデータフィールドには、移動端末を識別するための端末識別コード、音声データ、電子メール又はFAX草稿データ、或いは、清書データである電子メール又はFAXデータが格納される。

【0029】

この限定構成によって、移動端末と音声制御ホスト装置とを全世界的に容易に特定できると共に、音声認識／電子メール・FAX自動作成処理サービスと他の情報処理サービスとの共存を容易に実現できる。

【0030】

ここまでの発明の構成において、音声制御ホスト装置は、網によって相互に接続され、移動端末接続手段、音声データ受信手段、音声認識手段、電子メール・

FAX草稿データ作成手段、電子メール・FAX草稿データ返信手段、電子メール・FAX配信手段に対応する機能を分散して実現する複数のホストコンピュータから構成されるように実現することができる。

【0031】

この限定構成によって、ホスト装置側の負荷分散を容易に実現できる。

なお、上述した移動端末及び音声制御ホスト装置の単体も、本発明の権利範囲である。

【0032】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照しながら本発明の実施の形態について詳細に説明する。

本実施の形態においては、PHS機能が組み込まれた移動端末において、通話時に又はオフライン状態でマイクから入力された音声信号が、PHS網からインターネットを介して特定の音声サービスプロバイダ内のLANに接続される音声制御ホスト装置に送られ、そこで上記音声信号が認識された後に、その認識結果の内容が自動判別され、移動端末から指定されたフォーマット種類の文章、特に電子メール文章又はFAX文章に整形され、そのフォーマット文章データがリアルタイムに移動端末に返送され移動端末で必要に応じて編集された後、更に特に電子メール文章データ又はFAX文章データが音声制御ホスト装置108に転送されて送信されることが、本発明に関連する大きな特徴である。このようなシステムにより、移動端末は、高度な音声認識環境を設備する必要がなく実用的な精度を有する音声認識機能の提供を低コストで受けることができ、かつ音声認識結果に基づく電子メール又はFAXの作成／送信機能をも装備することができる。

<システム構成>

図1は、本発明の実施の形態の全体システム構成図である。

【0033】

移動端末101は、PHS端末機能を有しており、無線基地102を介して、無線通信によってPHS網103に接続される。無線基地102は、街路の公衆電話ボックス、電柱、ビル屋上、地下通路等に設けられる公衆無線基地、又は加入者宅内の親子電話装置等である。なお、親子電話装置に接続される場合は、P

H S 網を介さずに、直接公衆電話網に接続される。なお、無線基地 1 0 2 の代わりに、有線接続装置を介して、有線通信によって P H S 網 1 0 3 又は公衆電話網に接続されるように構成されてもよい。

【0034】

P H S 網 1 0 3 は、公衆電話網又は I S D N 網と相互接続しており、これらの網には、高速デジタル専用線等によってインターネット 1 0 5 に接続している移動端末制御ホスト装置 1 0 4 が接続されている。

【0035】

移動端末 1 0 1 は、無線基地 1 0 2 及び P H S 網 1 0 3 を介して、上記公衆電話網又は I S D N 網に接続されている移動端末制御ホスト装置 1 0 4 に自動的にダイヤルアップ発信することによって、インターネット 1 0 5 に接続することができる。

【0036】

インターネット 1 0 5 には、高速デジタル専用線等を介して所定の音声サービスプロバイダの L A N 1 0 7 に接続しているルータ装置 1 0 6 が接続されている。L A N 1 0 7 は、イーサネット方式、A T M (Asynchronous Transfer Mode) 方式、又は F D D I 方式によるローカルエリアネットワークである。L A N 1 0 7 には、更に音声制御ホスト装置 1 0 8 が接続されている。

【0037】

移動端末 1 0 1 は、移動端末制御ホスト装置 1 0 4 に自動的にダイヤルアップ発信した後に、インターネット 1 0 5、ルータ装置 1 0 6、及び L A N 1 0 7 を介して、音声制御ホスト装置 1 0 8 と通信することができる。

【0038】

今、移動端末 1 0 1 内の入力部 1 0 9 において、ユーザが、タッチパネルから音声制御ホスト装置 1 0 8 との通信を指示すると、制御部 1 1 0 は、通信部 1 1 1 に対して、音声制御ホスト装置 1 0 8 との通信開始を依頼する。

【0039】

通信部 1 1 1 は、制御部 1 1 0 から通信開始を依頼されると、現在移動端末制御ホスト装置 1 0 4 に接続していなければ、無線基地（又は有線接続装置） 1 0

2に無線（又は有線）発信してPHS網103に接続した後、移動端末制御ホスト装置104のアクセス電話番号を指定してダイヤルアップ発信する。

【0040】

移動端末制御ホスト装置104が着信すると、移動端末101内の通信部111は、まず、移動端末制御ホスト装置104内の接続確立部113と通信することにより、インターネット105上の標準通信プロトコルであるTCP/IP及びPPP方式による接続の確立のためのネゴシエーションを行う。この結果、移動端末制御ホスト装置104から、移動端末101内の通信部111に対して、インターネット105上の識別アドレスであるIPアドレスが付与され、移動端末101は、インターネット105へのアクセスが可能となる。

【0041】

移動端末101内の通信部111は、既に移動端末制御ホスト装置104に接続していれば、上記ダイヤルアップ発信は省略する。

その後、移動端末101内の通信部111は、予め設定されている音声制御ホスト装置108のIPアドレスである“宛先IPアドレス”と、移動端末制御ホスト装置104から付与されたIPアドレスである“送信元IPアドレス”と、移動端末101を識別するための“端末識別コード”（例えばPHS電話番号）と、ユーザの指定に基づく文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンド及びフォーマット種類データ又は文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドとが格納されたTCP/IPパケットを、インターネット105に向けて送出する。

【0042】

このTCP/IPパケットは、それに格納されている“宛先IPアドレス”に基づき、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114とインターネット105内の特には図示しない中継ホスト装置によって、音声サービスプロバイダ内のルータ装置106まで転送された後、更に、LAN107を介して音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115まで転送される。

【0043】

パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットから、“送信元I

Pアドレス”と、“端末識別コード”と、文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンド及びフォーマット種類データ又は文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドとを取り出して、音声制御ホスト装置108内の移動端末通信制御部116に引き渡す。

【0044】

移動端末通信制御部116は、引き渡された“送信元IPアドレス”と、“端末識別コード”と、文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンド及びフォーマット種類データ又は文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドに関する情報を後述する処理端末登録テーブル（図12）に登録した後、パケット送受信部115に対して、送信許可データが格納されたTCP/IPパケットの移動端末101への返信を依頼する。

【0045】

パケット送受信部115は、対応するTCP/IPパケットを、移動端末101に対応するIPアドレスに向けて送信する。

このようにして、音声制御ホスト装置108は、移動端末101から転送されてくる音声データに対して文音声認識／フォーマット化を実行することが可能となる。

【0046】

移動端末101内の通信部111は、音声制御ホスト装置108から上記送信許可データが格納されたTCP/IPパケットを受信すると、それに格納されている送信許可データを制御部110に引き渡す。

【0047】

移動端末101内の制御部110は、上記送信許可データを引き渡された後、通信部111に対して、通話動作又はオフライン状態での音声入力動作によってマイクから入力された音声データの音声制御ホスト装置108への送信を依頼する。

【0048】

通信部111は、上記音声データが格納されたTCP/IPパケットを、音声制御ホスト装置108に対応するIPアドレスに向けて送信する。

このTCP/IPパケットは、それに格納されている“宛先IPアドレス”に基づき、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114、インターネット105内の特には図示しない中継ホスト装置、音声サービスプロバイダ内のルータ装置106、及びLAN107を介して、音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115まで転送される。

【0049】

パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットに格納されている音声データを取り出し、それを音声制御ホスト装置108内の移動端末通信制御部116に引き渡す。

【0050】

移動端末通信制御部116は、引き渡された音声データを文音声認識部117に引き渡す。文音声認識部117は、引き渡された音声データに対して文音声認識処理を実行し、認識結果である認識音声文章データをフォーマット文章作成部118に引き渡す。フォーマット文章作成部118は、文音声認識/フォーマット化の開始要求コマンドと共に移動端末101から指定されたフォーマット種類データとフォーマット種類別フィールド辞書を使用して、文音声認識部117が出力する認識音声文章データのフィールドを判別し、更に不要語辞書1505を使用して不要語を削除して、フォーマット文章データを作成し、それを移動端末通信制御部116に引き渡す。

【0051】

例えば、移動端末101のユーザは、電子メール文章を作成したい場合に、文音声認識/フォーマット化の開始要求コマンドと共にフォーマット種類データとして“電子メール”を指定する。その後ユーザは、“宛先はtaro@casio.co.jpです”“カーボンコピーはhanako@osuga.co.jpです”“本文は・・・・・・です”などと順次発音する。また、FAX文章を作成したい場合、“宛先番号は0425の79の7735です”“本文は・・・・・・です”などと順次発音する。これらの発音内容は、音声制御ホスト装置108内の文音声認識部117により各認識音声文章データとして認識される。そして、フォーマット文章作成部118は、上記各認識音声文章データを、例えば電子メール文章のToフィールド、Ccフィー

ルド、本文フィールドの文章データであると判別し、更に不要語を削除した後、それぞれ“To:taro@casio.co.jp” “Cc:hanako@osuga.co.jp” “本文：・・・”などのフォーマット文章データを作成する。或いは、フォーマット文章作成部118は、上記各認識音声文章データを、例えばFAX文章の宛先番号フィールド、本文フィールドの文章データであると判別し、更に不要語を削除した後に、それぞれ“宛先番号：0425-79-7735” “本文：・・・”などのフォーマット文章データを作成する。

【0052】

移動端末通信制御部116は、フォーマット文章データが格納されたTCP/IPパケットの移動端末101への返信を依頼する。

パケット送受信部115は、対応するTCP/IPパケットを、移動端末101に対応するIPアドレスに向けて送信する。

【0053】

移動端末101内の通信部111は、音声制御ホスト装置108から上記フォーマット文章データが格納されたTCP/IPパケットを受信すると、それに格納されているフォーマット文章データを制御部110に引き渡す。

【0054】

移動端末101内の制御部110は、上記フォーマット文章データを、ユーザが予め指定したフォーマット種類データに対応するフォーマット種類の文章のテンプレートデータに差し込んで、それを出力部112に出力する。出力部112は、フォーマット文章データに対応する文章を、LCD表示部に表示する。ユーザは、この文章データを、任意に編集することができる。

【0055】

移動端末101のユーザは、入力部109において、タッチパネルから上述の編集が終了した電子メール文章又はFAX文章の送信を指示すると、制御部110は、通信部111に対して、音声制御ホスト装置108に対する電子メール文章データ又はFAX文章データの送信を依頼する。この場合、電子メール文章データには送信元アドレスを示すFromフィールドが、FAX文章データには送信元情報が、それぞれ自動的に付加される。

【0056】

通信部111は、上記電子メール文章データ又はFAX文章データが格納されたTCP/IPパケットを、音声制御ホスト装置108に対応するIPアドレスに向けて送信する。

【0057】

このTCP/IPパケットは、それに格納されている“宛先IPアドレス”に基づき、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114、インターネット105内の特には図示しない中継ホスト装置、音声サービスプロバイダ内のルータ装置106、及びLAN107を介して、音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115まで転送される。

【0058】

パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットに格納されている電子メール文章データ又はFAX文章データを取り出し、それを音声制御ホスト装置108内のメール送受信部119又はFAX送受信部120に引き渡す。

【0059】

メール送受信部119は、特には図示しない名前解決サーバに問い合わせることにより、電子メール文章データのToフィールド及びCcフィールドに設定されている電子メールアドレスをIPアドレスに変換した後、そのIPアドレスへの電子メール文章データの送信を、パケット送受信部115に依頼する。パケット送受信部115は、上記電子メールアドレスが格納されたTCP/IPパケットを生成し、それをインターネット105に向けて送信する。

【0060】

また、FAX送受信部120は、電話回線121（図1）に対して、FAX文章データの宛先番号フィールドに設定されている宛先番号をダイヤルし、着信した相手FAX装置に上記FAX文章データを送信する。

【0061】

一方、メール送受信部119は、インターネット105からパケット送受信部115を介して移動端末101向けの電子メール文章データを受信すると、それをスプールする。

【0062】

同様に、FAX送受信部120は、電話回線121から移動端末101向けのFAX文章データを受信すると、それをスプールする。

移動端末101のユーザは、任意のタイミングで、タッチパネルから電子メール文章データ又はFAX文章データの受信を指示すると、制御部110は、通信部111に対して、音声制御ホスト装置108に対するメール受信要求コマンド又はFAX受信要求コマンドの送信を依頼する。

【0063】

通信部111は、上記メール受信要求コマンド又はFAX受信要求コマンドが格納されたTCP/IPパケットを、音声制御ホスト装置108に対応するIPアドレスに向けて送信する。

【0064】

このTCP/IPパケットは、それに格納されている“宛先IPアドレス”に基づき、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114、インターネット105内の特には図示しない中継ホスト装置、音声サービスプロバイダ内のルータ装置106、及びLAN107を介して、音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115まで転送される。

【0065】

パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットに格納されているメール受信要求コマンド又はFAX受信要求コマンドを取り出し、それを音声制御ホスト装置108内のメール送受信部119又はFAX送受信部120に引き渡す。

【0066】

メール送受信部119は、メール受信要求コマンドを取り込むと、それと共に移動端末101から転送されてきた“端末識別コード”に対応するスプールファイルから、その移動端末101を宛先として受信された電子メール文章データを移動端末101へ送信することを、パケット送受信部115に依頼する。

【0067】

同様に、FAX送受信部120は、FAX受信要求コマンドを取り込むと、そ

れと共に移動端末101から転送されてきた“端末識別コード”に対応するスプ
ールファイルから、その移動端末101を宛先として受信されたFAX文章デー
タを移動端末101へ送信することを、パケット送受信部115に依頼する。

【0068】

パケット送受信部115は、上記電子メール文章データ又はFAX文章データ
が格納されたTCP/IPパケットを生成し、それを移動端末101に対応する
IPアドレスに向けて送信する。

【0069】

移動端末101内の通信部111は、音声制御ホスト装置108から上記電子
メール文章データ又はFAX文章データが格納されたTCP/IPパケットを受
信すると、それらの電子メール文章データ又はFAX文章データを制御部110
に引き渡す。

【0070】

移動端末101内の制御部110は、上述の受信された電子メール文章又はF
AX文章をLCD表示部に表示する。

一方、移動端末101は、音声制御ホスト装置108との通信のほかに、それ
が装備するホームページ閲覧ツール等を利用して、移動端末制御ホスト装置10
4にダイヤルアップ発信することにより、インターネット105上の所望のリソ
ースに自由にアクセスすることが可能である。

<移動端末101の外観構成>

図2は、図1の移動端末101の外観図である。

【0071】

移動端末101は、コンパクトな携帯情報管理装置の外観を有し、音声を入力
するための送話器を兼ねたマイク201と、本発明には特には関連しないが画像
を入力するためのカメラ202と、各種情報を表示し、またタッチ入力又はペン
入力を受け付けるタッチパネル機能を有するLCD表示部203と、音声を出力
するための受話器を兼ねたスピーカ204を有する、

また、図1の無線基地102に発信するための無線アンテナ205と、無線基
地102の代わりに有線接続装置に接続するためのソケット206を有する。

【0072】

更に、各種ICカードを挿入するためのICカードスロット207と、他の移動端末101又はパーソナルコンピュータ等との間で赤外線光通信を行うための光送受信機208を有する。

【0073】

スイッチ209は、電源スイッチである。

＜移動端末101の機能ブロック構成＞

図3は、移動端末101の機能ブロック図である。

【0074】

移動端末101は、図1にも示したように、入力部109、制御部110、通信部111、及び出力部112から構成され、それぞれバス326によって相互に接続されている。

【0075】

まず、入力部109は、音声を入力する部分と、本発明には特には関連しないが画像を入力する部分と、出力部112の動作において後述するタッチパネル機構の部分とから構成される。

【0076】

音声を入力する部分は、マイク301、A/D変換部302、及びマイク制御部303から構成される。

マイク301（図2の201に対応）は、PHS電話の送話器を兼ねており、ユーザが発声した音声を入力する。

【0077】

A/D変換部302は、マイク301から入力されたアナログ音声信号をデジタル音声データに変換し、更にそのデジタル音声データを、PHSの標準音声符号化方式であるADPCM（Adaptive Differential Pulse Code Modulation:適応差分線形パルス符号化）方式によって符号化する。なお、この部分は、PHS端末を構成するLSI集積回路として、既に実用化されている。

【0078】

マイク制御部303は、上記符号化された音声データを、通話時には、通信部

111内の通信制御部321に転送して通話チャンネルに載せると共に、文音声認識／フォーマット化時には、更に制御部110内のRAM317に転送する。

【0079】

一方、画像を入力する部分は、CCD (Charge Coupled Device) カメラ304、A/D変換部305、メモリ306、及びカメラ制御部307から構成される。

【0080】

CCDカメラ304は、ユーザの操作に基づいて任意の画像を撮像する。

A/D変換部305は、CCDカメラ304によって撮像されたアナログ映像信号を、デジタル画像データに変換する。

【0081】

メモリ306は、デジタル画像データをフレーム単位で記憶する。

カメラ制御部307は、CCDカメラ304、A/D変換部305、及びメモリ306の動作を制御する。

【0082】

次に、出力部112は、音声を出力する部分と、画像を出力する部分とから構成される。

音声を出力する部分は、スピーカ308、D/A変換部309、及びスピーカ制御部310から構成される。

【0083】

スピーカ制御部310は、通信部111内の通信制御部321から受信されたPHS通話音声データ、又は制御部110内のRAM317から受信された合成音声データを、D/A変換部309に転送する。

【0084】

D/A変換部309は、受信された音声データを復号し、アナログ音声信号に変換し、それをスピーカ308（図2の204に対応）から音声として放音させる。

【0085】

画像を出力する部分は、LCD表示部203、LCDドライバ312、メモリ

313、及びLCD制御部314から構成される。

LCD制御部314は、制御部110内のRAM317から受信された文字データ、イメージデータ、コマンドボタンデータ等の各種画像データをメモリ313にフレーム単位で保持させ、LCDドライバ312に起動をかける。

【0086】

LCDドライバ312は、メモリ313からフレーム単位で読み出される画像データを、LCD表示部311（図2の203に対応）に表示する。

なお、LCD表示部311（図2の203）の表面には、透明タッチパネルが配設されており、ユーザは、LCD表示部311に表示されるコマンドボタンデータ等に従って、タッチパネルに指タッチ又はペンタッチすることにより、コマンド入力を行うことができる。この入力信号は、タッチパネル制御部315によって制御部110内のRAM317に転送される。

【0087】

続いて、制御部110は、CPU316、RAM317、及びROM318と、ICカードインタフェース部319、及び必要に応じてICカードスロット207（図2）に挿入されるICカード320とから構成される。

【0088】

CPU316は、ROM318に記憶された制御プログラムに従って、RAM317をワークエリアとして使用しながら、移動端末101全体の動作を制御する。

【0089】

ICカードインタフェース部319は、ICカード320に対するデータの入出力を制御する。

最後に、通信部111は、通信制御部321、無線ドライバ322、無線アンテナ323、有線ドライバ324、及びソケット325から構成される。

【0090】

通信制御部321は、PHS通話処理及びインターネット105との間のTCP/IP通信処理（後述する）を実行し、無線ドライバ322又は有線ドライバ324を制御する。

【0091】

無線ドライバ322は、無線通信時に、通信データを、無線アンテナ323（図2の205に対応）を介して送受信されるPHS無線信号との間で相互変換する。PHS無線信号は、1.9GHzの無線周波数と、300kHzのキャリア周波数間隔と、4チャンネル／キャリアのTDMA-TDD無線アクセス方式と、 $\pi/4$ シフトQPSK変調方式と、384kbit/s/secの無線伝送速度に基づく無線信号である。

【0092】

一方、有線ドライバ324は、有線通信時に、通信データを、ソケット325（図2の206に対応）を介して送受信される有線信号との間で相互変換する。これは、一般的な電話帯域モデム変調信号である。

以上の構成を有する本発明の実施の形態の動作について、以下に詳細に説明する。

<移動端末101の処理>

まず、移動端末101の処理について説明する。

【0093】

図4は、図3の制御部110内のCPU316が、電源投入後に、制御部110内のROM318に記憶されている制御プログラムを実行する動作として実現される制御動作を示す全体動作フローチャートである。

【0094】

なお、図4、図5、及び図8の動作フローチャートで示される各機能を実現する制御プログラム及びそれに必要なデータは、例えば、図2に示されるICカードスロット207に着脱自在なICカード320に、CPU316が読み取り可能なプログラムコードの形態で記憶され、そのプログラムコードがCPU316によって直接実行され、又は、そのプログラムコードが必要に応じてRAM317又は書込み可能なROM318にロードされてCPU316によって実行されるように構成されてもよい。或いは、上述の制御プログラム及びそれに必要なデータは、無線又は有線の通信回線又は光送受信機208（図2）から通信部111を介して他の機器から受信されて、RAM317又は書込み可能なROM31

8にロードされてCPU316によって実行されるように構成されてもよい。

【0095】

まず、ステップ401→411→413→402→403→404→401の繰返しループにおいては、図3のタッチパネル制御部315からタッチパネル入力の検出が通知されたか否かの判定処理(401)、音声制御ホスト装置108(図1)から電子メール文章データが受信されたか否かの判定処理(411)、同じくFAX文章データが受信されたか否かの判定処理(413)、同じくフォーマット文章データが受信されたか否かの判定処理(402)、その他の受信／表示処理(403)、及び必要なデータの送信処理(404)が実行される。

【0096】

タッチパネル制御部315からタッチパネル入力の検出が通知されステップ401の判定がYESとなると、ステップ405又は406で、上記タッチパネル入力が図3のCCDカメラ304(図2の202)の入力指示又は図3のマイク301(図2の201)の入力指示であるか否かが、判定される。

【0097】

タッチパネル入力が図3のCCDカメラ304(図2の202)の入力指示であってステップ405の判定がYESとなると、ステップ407で、図3の入力部109内のカメラ制御部307に対して、例えば手書き文字画像等の入力処理の開始が指示される。その後、ステップ404の送信処理に進む。画像入力処理は、本発明には特には関連しないため、その詳細な説明は省略する。

【0098】

タッチパネル入力が図3のマイク301(図2の201)の入力指示であってステップ406の判定がYESとなると、ステップ408で、図3の入力部109内のマイク制御部303に対し、音声入力処理の開始が指示される。この音声入力処理の開始指示は、例えばPHS通話処理の開始指示、又は文音声認識／フォーマット化を実行するためのオフライン状態での音声入力処理の開始指示である。

【0099】

マイク制御部303は、上述のCPU316からの指示によって、マイク30

1 (図2の201) 及びA/D変換部302に対して、音声入力開始を指示する。この結果、A/D変換部302からは、マイク301 (図2の201) から入力された音声データが出力される。

【0100】

その後、上述の音声入力処理の開始指示がPHS通話の開始指示である場合には、上述の音声データは、通信制御部321の特には図示しない送信処理によって、所定の通話チャネルに載せられて通話相手に送信される。

【0101】

また、上述の音声入力処理の開始指示が文音声認識/フォーマット化のための音声入力処理の開始指示を含む場合は、それ以後マイク301 (図2の201) から入力されマイク制御部303から出力された音声データは、後述するステップ404の送信処理において、そこで音声制御ホスト装置108に向けて送信される。

【0102】

タッチパネル入力が図3のCCDカメラ304 (図2の202) の入力指示でも図3のマイク301 (図2の201) の入力指示でもない場合には、ステップ405及び406の判定がNOとなって、ステップ409で、他のキー入力処理が実行される。その後、ステップ404の送信処理に進む。

【0103】

一方、音声制御ホスト装置108 (図1) から通信部111を介して制御部110内のRAM317にフォーマット文章データが受信され、ステップ401→411→413→402→403→404→401の繰返しループにおけるステップ402の判定がYESとなると、ステップ410において、RAM317に受信されている上記フォーマット文章データが、ユーザが予め指定したフォーマット種類データに対応するフォーマット種類の文章のテンプレートデータに差し込まれ、それがRAM317から出力部112内のメモリ313に転送され、LCD制御部314に対し上記データの表示が指示される。この結果、LCD制御部314の制御により、メモリ313からLCDドライバ312を介してLCD表示部311 (図2の203) に、フォーマット化された文章が表示される。

【0104】

また、音声制御ホスト装置108（図1）から通信部111を介して制御部110内のRAM317に電子メール文章データが受信され、ステップ401→411→413→402→403→404→401の繰返しループにおけるステップ411の判定がYESとなると、ステップ412において、RAM317に受信されている上記電子メール文章データがRAM317から出力部112内のメモリ313に転送され、LCD制御部314に対し上記データの表示が指示される。この結果、LCD制御部314の制御により、メモリ313からLCDドライバ312を介してLCD表示部311（図2の203）に、受信された電子メール文章が表示される。

【0105】

同様に、音声制御ホスト装置108（図1）から通信部111を介して制御部110内のRAM317にFAX文章データが受信され、ステップ401→411→413→402→403→404→401の繰返しループにおけるステップ413の判定がYESとなると、ステップ414において、RAM317に受信されている上記FAX文章データがRAM317から出力部112内のメモリ313に転送され、LCD制御部314に対し上記データの表示が指示される。この結果、LCD制御部314の制御により、メモリ313からLCDドライバ312を介してLCD表示部311（図2の203）に、受信されたFAX文章が表示される。

【0106】

次に、ステップ404の送信処理について説明する。

図5は、上記送信処理の詳細を示す動作フローチャートである。

まず、ステップ501では、図4のステップ409の他キー入力処理によって処理されたタッチパネルからのキー入力を送信指示を伴っているか否かが判定される。但し、電子メール文章の送信指示及びFAX文章の送信指示は、後述するステップ514及び518で判定される。

【0107】

この判定がNOの場合には、ステップ505の処理へ進む。

ステップ501の判定がYESの場合には、ステップ502で、移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中であるか否かが判定される。

【0108】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中でありステップ502の判定がYESならば、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ504で、移動端末101の“端末識別コード”とキー入力処理に対応するコマンドの送信指示を、図3の通信部111内の通信制御部321に対し依頼する。この結果、通信制御部321は、上記“端末識別コード”とコマンドが格納されたTCP/IPパケットを生成し、それをインターネット105に接続されている所定のホスト（例えば図1の音声制御ホスト装置108）に向け送信する。

【0109】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中ではなくステップ502の判定がNOならば、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ503で、図3の通信部111内の通信制御部321に対して発信処理を依頼してから、ステップ504を実行する。

【0110】

後に詳述するように、ユーザの指定に基づく文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドとフォーマット種類データの送信指示、文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドの送信指示、メール受信要求コマンドの送信指示、及びFAX受信要求コマンドの送信指示は、上述のステップ504で発行される。

【0111】

前述したようにステップ501の判定がNOの場合又はステップ504の処理の後、ステップ505では、図4のステップ408によって、文音声認識／フォーマット化のための音声入力処理の開始指示が実行されており、音声データの音声制御ホスト装置108（図1）への送信指示がなされているか否かが判定される。

【0112】

この判定がNOの場合には、ステップ510の処理へ進む。

ステップ505の判定がYESの場合には、ステップ506で、音声制御ホスト装置108から文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドに対する応答である送信許可データが既に返信されているか否かが判定される。

【0113】

この判定がNOの場合には、音声制御ホスト装置108がまだ移動端末101からの文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドに対する準備が完了していないため、ステップ510の処理へ進む。

【0114】

音声制御ホスト装置108から文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドに対する応答である送信許可データが既に返信されておりステップ506の判定がYESの場合には、更に、ステップ507で、移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中であるか否かが判定される。

【0115】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中でありステップ507の判定がYESならば、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ509で、図3に示される入力部109内のマイク制御部303から制御部110内のRAM317に転送されてきている音声データの送信指示を、通信部111内の通信制御部321に対し依頼する。この結果、通信制御部321は、上記音声データが格納されたTCP/IPパケットを生成し、それをインターネット105に接続されている図1の音声制御ホスト装置108に向けて送信する。

【0116】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中ではなくステップ507の判定がNOならば、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ508で、図3の通信部111内の通信制御部321に対して発信処理を依頼してから、ステップ509を実行する。

【0117】

後に詳述するように、文音声認識／フォーマット化のための音声データの送信

指示は、上述のステップ509において発行される。

前述したようにステップ505又は506の判定がNOの場合又はステップ509の処理の後、ステップ510では、図4のステップ407によって、画像入力処理の開始指示が実行されており、画像データを図1のインターネット105に接続されている特には図示しない画像制御ホスト装置への送信指示がなされているか否かが判定される。

【0118】

この判定がNOの場合には、ステップ514の処理へ進む。

ステップ510の判定がYESの場合には、ステップ511で、移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中であるか否かが判定される。

【0119】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中でありステップ511の判定がYESならば、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ513で、図3に示される入力部109内のメモリ306に得られている画像データの送信指示を、通信部111内の通信制御部321に対して依頼する。この結果、通信制御部321は、上記画像データが格納されたTCP/IPパケットを生成し、それをインターネット105に接続されている特には図示しない画像制御ホスト装置108に向けて送信する。

【0120】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中ではなくステップ511の判定がNOならば、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ512で、図3の通信部111内の通信制御部321に対して発信処理を依頼してから、ステップ513を実行する。

【0121】

なお、ステップ513の画像データの送信指示は、本発明には特には関連しないため、その詳細な説明は省略する。

前述したようにステップ510の判定がNOの場合又はステップ513の処理の後、ステップ514では、図4のステップ409の他キー入力処理によって処

理されたタッチパネルからのキー入力が電子メール文章の送信指示であるか否かが判定される。

【0122】

この判定がNOの場合には、ステップ518の処理へ進む。

ステップ514の判定がYESの場合には、ステップ515で、移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中であるか否かが判定される。

【0123】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中でありステップ515の判定がYESなら、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ517で、キー入力処理に対応する電子メール文章データの送信指示を、図3の通信部111内の通信制御部321に対し依頼する。なお、この場合、電子メール文章データには送信元アドレスを示すFromフィールドが自動的に付加される。この結果、通信制御部321は、上記電子メール文章データが格納されたTCP/IPパケットを生成し、それをインターネット105に接続されている所定のホスト（例えば図1の音声制御ホスト装置108）に向け送信する。

【0124】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中ではなくステップ515の判定がNOならば、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ516で、図3の通信部111内の通信制御部321に対して発信処理を依頼してから、ステップ517を実行する。

【0125】

前述したようにステップ514の判定がNOの場合又はステップ517の処理の後、ステップ518では、図4のステップ409の他キー入力処理によって処理されたタッチパネルからのキー入力がFAX文章の送信指示であるか否かが判定される。

【0126】

この判定がNOの場合には、図4のステップ404の送信処理を終了する。

ステップ518の判定がYESの場合には、ステップ519で、移動端末10

1が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中であるか否かが判定される。

【0127】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中でありステップ519の判定がYESならば、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ521で、キー入力処理に対応するFAX文章データの送信指示を、図3の通信部111内の通信制御部321に対し依頼する。なお、この場合、FAX文章データには送信元情報が、それぞれ自動的に付加される。この結果、通信制御部321は、上記FAX文章データが格納されたTCP/IPパケットを生成し、それをインターネット105に接続されている所定のホスト（例えば図1の音声制御ホスト装置108）に向け送信する。

【0128】

移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中ではなくステップ519の判定がNOならば、図3の制御部110内のCPU316は、ステップ520で、図3の通信部111内の通信制御部321に対して発信処理を依頼してから、ステップ521を実行する。

【0129】

前述したようにステップ518の判定がNOの場合又はステップ521の処理の後、図4のステップ404の送信処理を終了する。

<通信データのフォーマット>

図6は、移動端末101と移動端末制御ホスト装置104及びインターネット105（音声制御ホスト装置108）との間で通信される通信データのフォーマット図である。

【0130】

移動端末101と移動端末制御ホスト装置104との間では、通信データは、PPP（Point-to-Point Protocol）と呼ばれる通信プロトコルに基づき、図6(a)に示されるPPPフレーム（図の左から右に向けて転送される）を用いて、PHS規格の32kbit/s/secの伝送レートを有するデジタル通信チャネル上を伝送される。

【0131】

PPPフレームを構成する、“フラグ”、“アドレス”、“コントロール”の各フィールドは、図6(a)に示される各固定ビット列が設定される。2オクテットのデータ長を有するFCSは、フレームチェックシーケンスと呼ばれ、PPPフレームデータの誤り検出／訂正用のデータである。移動端末101と移動端末制御ホスト装置104との間でPPPリンクが確立した後に転送されるPPPフレームの“インフォメーション”フィールド（可変データ長を有する）には、インターネット105（図1）上のデータの基本伝送単位であるIPデータグラムが格納され、その場合に、2オクテットのデータ長を有する“プロトコル”フィールドには、“インフォメーション”フィールドにIPデータグラムが格納されていることを示す16進値“0021”が格納される。

【0132】

PPPフレームの“インフォメーション”フィールドには、上述のようにIPデータグラムが格納される。このIPデータグラムは、上述のようにインターネット105上のデータの基本伝送単位である。IPデータグラムは、インターネットプロトコル（IP）に従って規定され、その“データ”フィールドに格納されたデータをインターネット105上の宛先のホスト装置まで一意に転送するための機能を提供し、インターネット105上でのアドレスを特定する機能、そのIPデータグラム自身を“宛先IPアドレス”で指定されたホストまでインターネット105上の一定の経路で転送する機能、そのIPデータグラム自身のフラグメント化（分割）と再組立てを行う機能等を備える。

【0133】

IPデータグラムは、図6(b)に示されるように、IPヘッダフィールドとデータフィールドとから構成される。IPヘッダフィールドには、それが含まれるIPデータグラム自身を配送するために必要な全ての情報が含まれる。図7(a)は、IPヘッダのフォーマット図である。

【0134】

IPヘッダは、32ビットを1ワードとして、5乃至6ワードのデータ長を有し、このデータ長は第1ワードの“ヘッダ長”フィールドに格納され、また、I

Pデータグラム全体のデータ長は、第1ワードの“IPデータグラムの全長”フィールドに格納される。

【0135】

第1ワードの“バージョン”フィールドには、IPデータグラムの転送方法を規定するインターネットプロトコル(IP)のバージョンが設定され、現在のバージョンは4である。

【0136】

第1ワードの“サービスの種類”フィールドには、配送の優先度を表わす情報等が格納されるが、ここは本発明には特には関連しない。

第2ワードの各フィールドは、IPデータグラムがインターネット105上での転送の制約によりフラグメント化(分割)される場合における制御情報を規定する。まず、“識別番号”フィールドには、分割されたフラグメントであるこのIPデータグラムが属する分割前のIPデータグラムを識別するための一意な整数が設定される。次に、“フラグメントのオフセット”フィールドには、分割されたフラグメントであるこのIPデータグラムが分割前のIPデータグラムのどの部分に相当するかを示すオフセット情報が設定される。そして、“フラグ列”フィールドには、分割されたフラグメントであるこのIPデータグラムに、それが属する分割前のIPデータグラムを構成する他のフラグメントが後続するか否かが設定される。以上の情報により、インターネット105上の中継ホストにおいてIPデータグラムがフラグメント化されても、受信側で分割前のIPデータグラムを正確に復元することができる。

【0137】

第3ワードの“生存期間”(TTL: Time To Live)フィールドには、そのIPデータグラムがインターネット105上にどれだけの時間の間存在することを許すかを示す秒単位の時間情報が設定される。インターネット105上の中継ホストは、IPデータグラムを処理する毎に上記フィールド値を減算し、値が0以下になったIPデータグラムはインターネット105上から廃棄する。これにより、インターネット105上での過度なトラヒックの発生が抑制される。なお、廃棄されたIPデータグラムに関する再送制御は、そのIPデータグラムに格納

されるTCPセグメントに対する制御処理において実行される。

【0138】

第3ワードの“プロトコル”フィールドには、そのIPデータグラムの“データ”フィールドに格納されるデータのフォーマットを規定するための整数値が設定される。本実施の形態の場合には、図6(c)に示されるように、IPデータグラムの“データ”フィールドにはTCPセグメントデータが格納されるため、そのフォーマットを規定する整数値6が設定される。

【0139】

第3ワードの“ヘッダのチェックサム”フィールドには、IPヘッダのデータの誤りを検出するためのチェックサムデータが設定される。

第4ワードには、32ビットの“送信元IPアドレス”が設定される。例えばIPデータグラムが移動端末101から音声制御ホスト装置108へ転送される場合には、“送信元IPアドレス”としては、後述する発信処理により移動端末制御ホスト装置104から移動端末101に対して付与されたIPアドレスが設定される。図1の音声制御ホスト装置108は、この“送信元IPアドレス”を記憶することにより、インターネット105を介して移動端末101に対して、フォーマット文章データ等を返信することができる。

【0140】

第5ワードには、32ビットの“宛先IPアドレス”が設定される。例えばIPデータグラムが移動端末101から音声制御ホスト装置108へ転送される場合には、“宛先IPアドレス”としては、音声制御ホスト装置108に固定的に割当てられているIPアドレスが設定される。移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114、インターネット105上の各中継ホスト装置、及び音声サービスプロバイダ内のルータ装置106は、受信したIPデータグラムに格納されている上記“宛先IPアドレス”を識別することによって、予め各装置が有する経路制御テーブル情報に従って、そのIPデータグラムの配送経路を決定し、最終的にそのIPデータグラムを音声サービスプロバイダ内の音声制御ホスト装置108まで転送することができる。

【0141】

第6ワードの“IPオプション”フィールドは、オプションであり、インターネット105を構成する各ネットワークのテスト又はデバッグのための情報や、インターネット105上での配送経路を制御又は監視するための制御情報等が設定されるが、ここは本発明には特には関連しない。

【0142】

第6ワードの“パディング”フィールドには、データ長を合わせるためのパディングデータが設定される。

次に、IPデータグラムの“データ”フィールドには、TCPセグメントデータが格納される。このTCPセグメントは、トランスミッションコントロールプロトコル(TCP)に従って規定され、その“データ”フィールドに格納されたデータをインターネット105上の宛先のホスト装置まで正確に適切な順序で配送するための機能を備える。IPデータグラムがインターネット105上でのデータの一意な転送の機能のみを提供し、データの信頼性を確保する機能(再送制御機能等)を提供しないのに対して、TCPセグメントは、データの信頼性を確保する機能を提供するものである。

【0143】

このように、通信データが、(PPPフレームと)IPデータグラムとTCPセグメントという階層構造を有するのは、インターネット105上ではなるべく小さい処理負荷のもとで効率良くデータを配送する必要があり、エンド対エンド間ではできるかぎり信頼性の高いデータ配送を実現する必要があるという異なる要請に効率的に対処するためである。これにより、インターネット105上の中継ホスト装置は、IPデータグラムのIPヘッダのみを参照することにより、そのIPデータグラムの“データ”フィールドに格納された情報(TCPセグメント)をできる限り高速かつ効率的に宛先ホスト装置まで配送することができ、エンド対エンド(送信元ホスト装置と宛先ホスト装置)間では、TCPセグメントのTCPヘッダを参照することにより、再送制御等の信頼性の高いデータ通信を実現することができるのである。

【0144】

TCPセグメントは、図6(b)に示されるように、TCPヘッダフィールドと

データフィールドとから構成される。図7(b)は、TCPヘッダのフォーマット図である。

【0145】

TCPヘッダは、IPヘッダの場合と同様に、32ビットを1ワードとして、5乃至6ワードのデータ長を有し、このデータ長は第4ワードの“ヘッダ長”フィールドに格納され、また、IPデータグラム全体のデータ長は、第1ワードの“IPデータグラムの全長”フィールドに格納される。

【0146】

第1ワードの“送信元ポート番号”フィールド及び“宛先ポート番号”フィールドには、文音声認識／フォーマット化のための通信プロトコルを特定する16ビットの整数値、メール送信プロトコル（例えば、SMTP: Simple Mail Transfer Protocol）を特定する16ビットの整数値、メール受信プロトコル（例えば、POP3）を特定する16ビットの整数値、又はFAX通信プロトコルを特定する16ビットの整数値の何れかが設定される。

【0147】

音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115（図1）は、受信したTCPセグメントのTCPヘッダに設定されている“宛先ポート番号”フィールドの値を認識することによって、そのTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されているデータを音声制御ホスト装置108で実行されるどのアプリケーションに引き渡すかを決定することができる。

【0148】

そして、パケット送受信部115は、受信したTCPセグメントのTCPヘッダに設定されている“宛先ポート番号”フィールドの値が、文音声認識／フォーマット化のための通信プロトコルに対応する値を示している場合には、そのTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されている音声データを移動端末通信制御部116に引き渡し、前述のメール送信プロトコル又はメール受信プロトコルに対応する値を示している場合は、そのTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されている電子メール文章データ又はメール受信要求コマンド等をメール送受信部119に引き渡し、前述のFAX通信プロトコルに対応する値を

示している場合には、そのTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されているFAX文章データ又はFAX受信要求コマンド等をFAX送受信部120に引き渡すことができる。

【0149】

同様に、移動端末101の通信部111内の通信制御部321（図3）も、受信したTCPセグメントのTCPヘッダに設定されている“宛先ポート番号”フィールドの値を認識することによって、そのTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されているデータを移動端末101で実行されるどのアプリケーションに引き渡すかを決定することができる。

【0150】

そして、通信制御部321は、受信したTCPセグメントのTCPヘッダに設定されている“宛先ポート番号”フィールドの値が、文音声認識／フォーマット化のための通信プロトコルに対応する値を示している場合は、制御部110（図1、図3）に、文音声認識／フォーマット化のためのデータの受信を通知し、そのTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されているフォーマット文章データを引き渡し、前述のメール送信プロトコル又はメール受信プロトコルに対応する値を示している場合には、制御部110（図1、図3）に、電子メール送受信処理のためのデータの受信を通知し、そのTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されている電子メール文章データ等を引き渡し、FAX通信プロトコルに対応する値を示している場合は、制御部110（図1、図3）に、FAX送受信処理のためのデータの受信を通知し、そのTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されているFAX文章データ等を引き渡すことができる。

【0151】

更に、音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115及び移動端末101の通信部111内の通信制御部321は、受信したTCPセグメントのTCPヘッダに設定されている“送信元ポート番号”を確認することにより、送信元のアプリケーションのプロトコルを確認することができる。

【0152】

次に、図7に示されるTCPヘッダの第2ワードの“シーケンス番号”フィー

ルドは、現在のTCPコネクションにおいて送信側から受信側に送信される全バイトストリームのうち、このTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されているデータの先頭が上記全バイトストリームの何バイト目にあたるかを、送信側から受信側に通知するためのフィールドである。逆に、第3ワードの“確認応答番号”フィールドは、現在のTCPコネクションにおいて送信側から受信側に送信される全バイトストリームのうち、受信側が現在何バイト目までを誤り無く受信したかを、受信側から送信側に通知するためのフィールドである。これにより、例えば移動端末101から音声制御ホスト装置108に対して、音声データ、電子メール文章データ、FAX文章データ等を正しい順序でかつ高い信頼性のもとで転送することが可能となる。

【0153】

第4ワードの“フラグ列”フィールドには、TCPセグメントの種類を示す値が設定される。TCP通信においては、例えばコネクションの開始時又は終了時等において確認応答のための様々な制御データが通信されるが、それらの制御データの種類の種類が、“フラグ列”フィールドに設定される。

【0154】

第4ワードの“ウインドウ”フィールドは、受信側が現在何バイトのデータを連続して受信することが可能であることを示すウインドウデータを、受信側から送信側に通知するためのフィールドである。これにより、受信側から送信側に対するデータのフロー制御が可能となり、例えば音声制御ホスト装置108の負荷が高いような場合は移動端末101に対して音声データ、電子メール文章データ、FAX文章データ等の送信を抑制させる、というようなきめの細かい制御が可能となる。

【0155】

第4ワードの“予約済”フィールドは、予約用のフィールドである。

第5ワードの“チェックサム”フィールドには、TCPヘッダ及び“データ”フィールドに格納されているデータの誤りを検出するためのチェックサムデータが格納される。これにより、例えば音声制御ホスト装置108は、移動端末101から音声データを正確に受信することができる。

【0156】

第5ワードの“緊急ポインタ”は、緊急データ（インタラプトデータやアポートデータ等）を通信するための制御データであるが、これは本発明には特には関連しない。

【0157】

第6ワードの“オプション”フィールドは、例えば送受信装置間で通信可能な最大セグメント長を指定するため等に使用されるが、これは本発明には特には関連しない。

【0158】

第6ワードの“パディング”フィールドには、データ長を合わせるためのパディングデータが設定される。

上述の構成を有するTCPセグメントの通信（終端）処理機能は、移動端末101においては通信部111内の通信制御部321（図3）において実現され、音声制御ホスト装置108においてはパケット送受信部115（図1）において実現される。なお、移動端末101においてCPU316が実行する制御プログラムが上記処理機能を実現するように構成されてもよい。

<発信処理>

前述のように、移動端末101の制御部110内のCPU316（図3）は、図4のステップ404に対応する図5に示される送信処理のうち、移動端末101が現在図1の移動端末制御ホスト装置104に接続中でなくステップ502、507、511、515、又は518の判定がNOである場合には、ステップ503、508、512、516、又は520において、図3の通信部111内の通信制御部321に対して発信処理を依頼する。この依頼によって、通信制御部321が実行する発信処理は、図8の動作フローチャートによって示される。

【0159】

まず、ステップ801では、リンク確立フェーズが実行される。このフェーズでは、移動端末制御ホスト装置104のアクセス電話番号に対して自動的にダイヤルアップが行われ移動端末制御ホスト装置104が着信した後、リンクコントロールプロトコル（LCP）と呼ばれるプロトコルを使用し、通信に使用される

PPPフレーム（図6(a)）の最大データ長の決定、エスケープされるべき非透過文字の決定、PPPフレームの“プロトコル”フィールド（図6(a)）のデータ長を2オクテットから1オクテットに圧縮することの有無の決定、PPPフレームの固定値“11111111”を有する“アドレス”フィールド（図6(a)）を省略（圧縮）することの有無の決定等に関するネゴシエーションが、移動端末制御ホスト装置104内の接続確立部113（図1）との間で実行される。この場合、移動端末101の通信部111内の通信制御部321と移動端末制御ホスト装置104内の接続確立部113との間の通信は、図6(a)に示されるフォーマットを有するPPPフレームを用いて、その“プロトコル”フィールドにLCPを特定する16進値“c021”を設定し、その“インフォメーションフィールド”に、必要な制御データを設定して、実行される。

【0160】

次に、ステップ802においては、認証フェーズが実行される。このフェーズでは、PAP（Password Authentication Protocol）又はCHAP（Challenge Handshake Authentication Protocol）と呼ばれる認証プロトコルを使用し、移動端末101を使用するユーザの認証が、移動端末制御ホスト装置104内の接続確立部113（図1）から移動端末101に対して実行される。これにより、移動端末制御ホスト装置104を運営するインターネットプロバイダは、移動端末101を使用するユーザが契約されたユーザであるか否かを決定できる。この場合、移動端末101の通信部111内の通信制御部321と移動端末制御ホスト装置104内の接続確立部113との間の通信は、図6(a)に示されるフォーマットを有するPPPフレームを用いて、その“プロトコル”フィールドにPAPを特定する16進値“c023”又はCHAPを特定する16進値“c223”を設定し、その“インフォメーションフィールド”に、必要な認証用データを設定して、実行される。

【0161】

最後に、ステップ803では、ネットワークレイヤプロトコルフェーズが実行される。本実施の形態の場合、このフェーズでは、IPコントロールプロトコル（IPCP）と呼ばれるプロトコルを使用して、TCPヘッダ（図7(b)参照）

の圧縮の有無が決定されると共に、移動端末制御ホスト装置104が割当てることのできる空き（未使用）IPアドレスのうちの1つが移動端末101に対して割り当てられ、加えて、必要な経路情報が移動端末101の通信部111内の通信制御部321（図3）と移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114（図1）に設定される。これ以後、移動端末101は、そのIPアドレスを使用することによって、インターネット105に接続される音声制御ホスト装置108、及びインターネット105上のユーザが希望する任意のリソースにアクセスすることが可能となる。この場合、移動端末101の通信部111内の通信制御部321と移動端末制御ホスト装置104内の接続確立部113との間の通信は、図6(a)に示されるフォーマットを有するPPPフレームを用いて、その“プロトコル”フィールドにIPCPを特定する16進値“8021”を設定し、その“インフォメーションフィールド”に、必要なIPアドレスのネゴシエーションのためのデータ等を設定して、実行される。

【0162】

以上の一連の動作により、移動端末101は、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114との間で通信用のTCP/IPパケットが格納されたPPPフレームを授受することが可能となり、移動端末101は、インターネット105上のリソースに自由にアクセスすることが可能になる。

【0163】

なお、PHS通話時にも音声制御ホスト装置108等へのアクセスを可能とするために、移動端末101は、例えば2チャンネル同時通信機能を有するように構成することができる。

【0164】

また、移動端末101の通信部111内の通信制御部321（図3）は、一定時間（例えば10分間）送受信データを検出しなかった場合に、移動端末制御ホスト装置104との間のPPPリンクを自動的に切断するように構成することができる。

<文音声認識／フォーマット化に関する移動端末101の送受信処理の詳細動作>

ユーザが移動端末101のタッチパネルを操作してフォーマット種類と文音声認識／フォーマット化の開始を指示した場合及びそれ以後に移動端末101が実行する送受信処理の詳細な動作について、説明する。

【0165】

上述のタッチパネルの操作は、図3のタッチパネル制御部315において検出された後、制御部110内のCPU316（図3）によって、それが実行される前述した図4の動作フローチャートに対応する制御動作において、ステップ401の判定がYES、ステップ405及び406の判定がNOとなって、ステップ409の他キー入力処理が実行されることにより、検出される。更に、ステップ404の送信処理において、前述した図5のステップ501の判定がYESとなり、必要に応じてステップ503で発信処理が実行された後、ステップ504において、移動端末101の“端末識別コード”と上述の文音声認識／フォーマット化の開始指示を示すキー入力処理に対応するコマンドとデータの送信指示が、図3の通信部111内の通信制御部321に対して依頼される。

【0166】

この結果、通信制御部321は、まず、図6(c)に示されるフォーマットを有するTCPセグメントを生成する。この場合、図6(c)及び図7(b)に示されるフォーマットを有するTCPヘッダにおいて、“送信元ポート番号”フィールド及び“宛先ポート番号”フィールドには、文音声認識／フォーマット化のための通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定される。そして、TCPセグメントの“データ”フィールドには、移動端末101を特定する“端末識別コード”（例えばそのPHS電話番号）と、ユーザの指定に基づく文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドと、ユーザの指定に基づくフォーマット種類データとが格納される。

【0167】

次に、通信制御部321は、上述のTCPセグメントが“データ”フィールドに格納された図6(b)に示されるフォーマットを有するIPデータグラムを生成する。この場合に、図6(b)及び図7(a)に示されるフォーマットを有するIPヘッダにおいて、“プロトコル”フォーマットには、その“データ”フィールド

に格納されるTCPセグメントデータのフォーマットを規定する整数値6が設定される。また、“送信元IPアドレス”フィールドには、既に実行されている発信処理（図8のステップ803の説明を参照）によって移動端末制御ホスト装置104内の接続確立部113から移動端末101の通信部111内の通信制御部321に対して付与されたIPアドレスが設定される。更に、“宛先IPアドレス”フィールドには、音声制御ホスト装置108に割り当てられているIPアドレスが設定される。

【0168】

そして、通信制御部321は、上述のIPデータグラムが“インフォメーション”フィールドに格納され、その“インフォメーション”フィールドにIPデータグラムが格納されていることを示す16進値“0021”が“プロトコル”フィールドに格納された図6(a)に示されるフォーマットを有するPPPフレームを生成し、通信制御部321内に設定されている経路情報（図8のステップ803の説明を参照）に従って、上記PPPフレームを移動端末制御ホスト装置104に送信する。以降、上述のTCPセグメント、IPデータグラム、及びPPPフレームとからなるデータ単位がインターネット105内を転送される場合に、そのデータ単位を単にTCP/IPパケットと呼ぶ。

【0169】

このTCP/IPパケットは、それを構成するIPデータグラムのIPヘッダに格納されている“宛先IPアドレス”に基づいて、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114とインターネット105内の特には図示しない中継ホスト装置によって、音声サービスプロバイダ内のルータ装置106まで転送された後、更に、LAN107を介して音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115まで転送される。

【0170】

パケット送受信部115は、転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダの“宛先IPアドレス”フィールドに自分である音声制御ホスト装置108のIPアドレスが設定されていることを識別することによって、そのTCP/IPパケットを受信する。

【0171】

そして、パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドに文音声認識／フォーマット化のための通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定されていることを確認することにより、移動端末通信制御部116（図1）に対して受信通知を通知する。

【0172】

この通知と共に、パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダから“送信元IPアドレス”を取り出し、上記TCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“データ”フィールドから“端末識別コード”と文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドとフォーマット種類データとを取り出して、それらのデータを移動端末通信制御部116に引き渡す。

【0173】

この結果、後述するようにして音声制御ホスト装置108から移動端末101に対して、送信許可データが格納されたTCP/IPパケットが返信される。

このTCP/IPパケットは、それを構成するIPデータグラムのIPヘッダに格納されている“宛先IPアドレス”に基づいて、音声サービスプロバイダ内のルータ装置106と、インターネット105内の特には図示しない中継ホスト装置によって、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114まで転送された後、更に、PHS網103（図1）を介して移動端末101の通信部111内の通信制御部321（図3）まで転送される。

【0174】

移動端末101の通信部111内の通信制御部321は、転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダの“宛先IPアドレス”フィールドに自分である移動端末101（に一時的又は動的）に割当てられているIPアドレスが設定されていることを識別することによって、そのTCP/IPパケットを受信する。

【0175】

そして、通信制御部321は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドに文音声認識／フォーマット化のための通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定されていることを確認することにより、移動端末101の制御部110内のCPU316に対して受信通知を通知する。

【0176】

この通知と共に、通信制御部321は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“データ”フィールドから送信許可データを取り出し、それをCPU316に引き渡す。

【0177】

CPU316は、上述の受信通知と送信許可データを、前述した図4のステップ403で処理し、その送信許可データをRAM317に記憶する。

移動端末101では、ユーザがタッチパネルを操作して文音声認識／フォーマット化の開始を指示することによって、CPU316が、前述した図4のステップ408で、図3の入力部109内のマイク制御部303に対して、PHS通話処理の開始指示、又は文音声認識／フォーマット化を実行するためのオフライン状態での音声入力処理の開始を指示する。これにより、ユーザは、通話動作又はオフライン状態での音声入力動作によってマイク301（図2の201）からの音声の入力を開始している。

【0178】

これ以後、CPU316により前述した図4のステップ401→402→403→404→401の繰返しループの1処理として実行されるステップ404の送信処理において、図5のステップ505、506の判定がYESとなり、必要に応じてステップ508で再度の発信処理が実行された後、ステップ509で、図3に示される入力部109内のマイク制御部303から制御部110内のRAM317に転送されてきている音声データの送信指示が、通信部111内の通信制御部321に対して依頼される。

【0179】

この結果、通信制御部321は、まず、図6(c)に示されるフォーマットを有

するTCPセグメントを生成する。この場合に、図6(c)及び図7(b)に示されるフォーマットを有するTCPヘッダにおいて、“送信元ポート番号”フィールド及び“宛先ポート番号”フィールドには、文音声認識／フォーマット化のための通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定される。そして、TCPセグメントの“データ”フィールドには、図3に示される入力部109内のマイク制御部303から制御部110内のRAM317に転送されてきている音声データが格納される。

【0180】

次に、通信制御部321は、上述のTCPセグメントが“データ”フィールドに格納された図6(b)に示されるフォーマットを有するIPデータグラムを生成する。この場合に、図6(b)及び図7(a)に示されるフォーマットを有するIPヘッダにおいて、“プロトコル”フォーマットには、その“データ”フィールドに格納されるTCPセグメントデータのフォーマットを規定する整数値6が設定される。また、“送信元IPアドレス”フィールドには、既に実行されている発信処理（図8のステップ803の説明を参照）によって移動端末制御ホスト装置104内の接続確立部113から移動端末101の通信部111内の通信制御部321に対して付与されたIPアドレスが設定される。更に、“宛先IPアドレス”フィールドには、音声制御ホスト装置108に割り当てられているIPアドレスが設定される。

【0181】

そして、通信制御部321は、上述のIPデータグラムが“インフォメーション”フィールドに格納され、その“インフォメーション”フィールドにIPデータグラムが格納されていることを示す16進値“0021”が“プロトコル”フィールドに格納された図6(a)に示されるフォーマットを有するPPPフレームを生成し、通信制御部321内に設定されている経路情報（図8のステップ803の説明を参照）に従って、上記PPPフレームを移動端末制御ホスト装置104に送信する。

【0182】

このTCP/IPパケットは、それを構成するIPデータグラムのIPヘッダ

に格納されている“宛先IPアドレス”に基づいて、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114とインターネット105内の特には図示しない中継ホスト装置によって、音声サービスプロバイダ内のルータ装置106まで転送された後、更に、LAN107を介して音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115まで転送される。

【0183】

パケット送受信部115は、転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダの“宛先IPアドレス”フィールドに自分である音声制御ホスト装置108のIPアドレスが設定されていることを識別することによって、そのTCP/IPパケットを受信する。

【0184】

そして、パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドに文音声認識/フォーマット化のための通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定されていることを確認することにより、移動端末通信制御部116（図1）に対して受信通知を通知する。

【0185】

この通知と共に、パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダから“送信元IPアドレス”を取り出し、上記TCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“データ”フィールドから音声データを取り出して、それらのデータを移動端末通信制御部116に引き渡す。

【0186】

この結果、移動端末通信制御部116は、後述するようにして文音声認識/フォーマット化の制御を実行し、文音声認識部117に対して受信した音声データの認識処理を実行させ、それによって得られる認識音声文章データについてフォーマット文章作成部118に対してフォーマット化を実行させる。そして、移動端末通信制御部116は、後述するようにして、フォーマット文章作成部118から得たフォーマット文章データが格納されたTCP/IPパケットを、移動端

末101に対して返信する。

【0187】

このTCP/IPパケットは、それを構成するIPデータグラムのIPヘッダに格納されている“宛先IPアドレス”に基づいて、音声サービスプロバイダ内のルータ装置106と、インターネット105内の特には図示しない中継ホスト装置によって、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114まで転送された後、更に、PHS網103（図1）を介して移動端末101の通信部111内の通信制御部321（図3）まで転送される。

【0188】

移動端末101の通信部111内の通信制御部321は、転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダの“宛先IPアドレス”フィールドに自分である移動端末101（に一時的又は動的）に割当てられているのIPアドレスが設定されていることを識別することによって、そのTCP/IPパケットを受信する。

【0189】

そして、通信制御部321は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドに文音声認識/フォーマット化のための通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定されていることを確認することにより、移動端末101の制御部110内のCPU316に対して受信通知を通知する。

【0190】

この通知と共に、通信制御部321は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“データ”フィールドからフォーマット文章データを取り出し、それをCPU316に引き渡す。

【0191】

CPU316は、上述の受信通知とフォーマット文章データを、前述した図4のステップ402で処理し、そのフォーマット化された文章をLCD表示部311（図2の203）に表示する。

【0192】

ユーザは、移動端末101のタッチパネルを操作することにより、音声制御ホスト装置108に対して文音声認識／フォーマット化の終了を示すための、文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドを指示することができる。

【0193】

この場合に、上述のタッチパネルの操作は、図3のタッチパネル制御部315において検出された後、制御部110内のCPU316（図3）によって、それが実行される前述した図4の動作フローチャートに対応する制御動作において、ステップ401の判定がYES、ステップ405及び406の判定がNOとなつて、ステップ409の他キー入力処理が実行されることにより、検出される。更に、ステップ404の送信処理において、前述した図5のステップ501の判定がYESとなり、必要に応じてステップ503で発信処理が実行された後、ステップ504において、移動端末101の“端末識別コード”と上述の文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドの送信指示が、図3の通信部111内の通信制御部321に対して依頼される。

【0194】

この結果、通信制御部321はまず、“データ”フィールドに移動端末101を特定する“端末識別コード”と文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドとが格納された図6(c)に示されるフォーマットを有するTCPセグメントを生成し、次に、そのTCPセグメントが“データ”フィールドに格納された図6(b)に示されるフォーマットを有するIPデータグラムを生成し、更に、そのIPデータグラムが“インフォメーション”フィールドに格納された図6(a)に示されるフォーマットを有するPPPフレームを生成し、それらからなるTCP／IPパケットを送信する。この場合、TCPヘッダ（図6(c)、図7(b)）、IPヘッダ（図6(b)、図7(a)）、及び“プロトコル”フィールド（図6(a)）に設定される各情報は、前述の文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドが送信される場合に設定される各情報と同一である。

【0195】

この結果、上述のTCP／IPパケットは、前述の文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンド等が格納されたTCP／IPパケットの場合と全く同様に

して、インターネット105を介して音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115まで転送される。

【0196】

パケット送受信部115は、前述の文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンド等が格納されたTCP／IPパケットが転送されてきた場合と全く同様に、転送されてきたTCP／IPパケットを受信し、移動端末通信制御部116（図1）に対して受信通知を通知する。

【0197】

この通知と共に、パケット送受信部115は、受信したTCP／IPパケットを構成するTCPセグメントの“データ”フィールドから“端末識別コード”と文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドとを取り出して、それらのデータを移動端末通信制御部116に引き渡す。

【0198】

この結果、移動端末通信制御部116は、後述するようにしてその移動端末101に対する文音声認識／フォーマット化を終了する。

＜電子メール文章データ及びFAX文章データの送受信処理の詳細動作＞

次に、ユーザが移動端末101のタッチパネルを操作して、編集が終了した電子メール文章又はFAX文章の送信を指示した場合の移動端末101の詳細な動作について、説明する。

【0199】

上述のタッチパネルの操作は、図3のタッチパネル制御部315において検出された後、制御部110内のCPU316（図3）によって、それが実行される前述した図4の動作フローチャートに対応する制御動作において、ステップ401の判定がYES、ステップ405及び406の判定がNOとなって、ステップ409の他キー入力処理が実行されることにより、検出される。更に、ステップ404の送信処理において、前述した図5のステップ514（電子メール文章の場合）又は518（FAX文章の場合）の判定がYESとなり、必要に応じてステップ516又は520で発信処理が実行された後、ステップ517又は521において、電子メール文章データ又はFAX文章データの送信指示が、図3の通

信部 1 1 1 内の通信制御部 3 2 1 に対して依頼される。なお、前述したように、電子メール文章データには送信元アドレスを示すFromフィールドが、FAX文章データには送信元情報が、それぞれ自動的に付加される。

【0200】

この結果、通信制御部 3 2 1 は、まず、図 6 (c) に示されるフォーマットを有するTCPセグメントを生成する。この場合、図 6 (c) 及び図 7 (b) に示されるフォーマットを有するTCPヘッダにおいて、“送信元ポート番号”フィールド及び“宛先ポート番号”フィールドには、メール送信プロトコル（例えば、SMTP）を特定する16ビットの整数値又はFAX通信プロトコルを特定する16ビットの整数値の何れかが設定される。そして、TCPセグメントの“データ”フィールドには、電子メール文章データ又はFAX文章データの何れかが格納される。

【0201】

次に、通信制御部 3 2 1 は、上述のTCPセグメントが“データ”フィールドに格納された図 6 (b) に示されるフォーマットを有するIPデータグラムを生成し、更に、そのIPデータグラムが“インフォメーション”フィールドに格納された図 6 (a) に示されるフォーマットを有するPPPフレームを生成し、それらからなるTCP/IPパケットを送信する。この場合、IPヘッダ（図 6 (b) 、図 7 (a) ）及び“プロトコル”フィールド（図 6 (a) ）に設定される各情報は、前述の文音声認識／フォーマット化時に音声データが送信される場合に設定される各情報と同一である。

【0202】

この結果、上述のTCP/IPパケットは、前述の文音声認識／フォーマット化時に音声データが格納されたTCP/IPパケットの場合と全く同様にして、インターネット 1 0 5 を介して音声制御ホスト装置 1 0 8 内のパケット送受信部 1 1 5 まで転送される。

【0203】

パケット送受信部 1 1 5 は、転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダの“宛先IPアドレス”フィールドに自分である

音声制御ホスト装置108のIPアドレスが設定されていることを識別することによって、そのTCP/IPパケットを受信する。

【0204】

そして、パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドに前述のメール送信プロトコルを特定する16ビットの整数値又はFAX通信プロトコルを特定する16ビットの整数値の何れかが設定されていることを確認することにより、メール送受信部119又はFAX送受信部120の何れかに対して受信通知を通知する。

【0205】

この通知と共に、パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットを構成するIPデータグラム/IPヘッダから“送信元IPアドレス”を取り出し、上記TCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“データ”フィールドから電子メール文章データ又はFAX文章データの何れかを取り出して、それらのデータをメール送受信部119又はFAX送受信部120の何れかに引き渡す。

【0206】

この結果、メール送受信部119又はFAX送受信部120が、電子メール文章データ又はFAX文章データに対して後述する送信処理を実行する。

次に、ユーザが移動端末101のタッチパネルを操作して、電子メール文章又はFAX文章の受信を指示した場合の移動端末101の詳細な動作について、説明する。

【0207】

上述のタッチパネルの操作は、図3のタッチパネル制御部315において検出された後、制御部110内のCPU316（図3）によって、それが実行される前述した図4の動作フローチャートに対応する制御動作において、ステップ401の判定がYES、ステップ405及び406の判定がNOとなって、ステップ409の他キー入力処理が実行されることにより、検出される。更に、ステップ404の送信処理において、前述した図5のステップ501の判定がYESとな

り、必要に応じてステップ503で発信処理が実行された後、ステップ504において、メール受信要求コマンド又はFAX受信要求コマンドの送信指示が、図3の通信部111内の通信制御部321に対して依頼される。

【0208】

この結果、通信制御部321はまず、“データ”フィールドに移動端末101を特定する“端末識別コード”と、メール受信要求コマンド又はFAX受信要求コマンドとが格納された図6(c)に示されるフォーマットを有するTCPセグメントを生成し、次にそのTCPセグメントが“データ”フィールドに格納された図6(b)に示されるフォーマットを有するIPデータグラムを生成し、更にそのIPデータグラムが“インフォメーション”フィールドに格納された図6(a)に示されるフォーマットを有するPPPフレームを生成し、それらからなるTCP/IPパケットを送信する。この場合、TCPヘッダ(図6(c)、図7(b))、IPヘッダ(図6(b)、図7(a))、“プロトコル”フィールド(図6(a))に設定される各情報は、前述の電子メール文章データ又はFAX文章データが送信される場合に設定される各情報と同一である。

【0209】

この結果、上記TCP/IPパケットは、前述の電子メール文章データ又はFAX文章データが送信される場合と全く同様にして、インターネット105を介して音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115まで転送される。

【0210】

パケット送受信部115は、転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダの“宛先IPアドレス”フィールドに自分である音声制御ホスト装置108のIPアドレスが設定されていることを識別することによって、そのTCP/IPパケットを受信する。

【0211】

そして、パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドにメール受信プロトコルを特定する16ビットの整数値又はFAX通信プロトコルを特定する16ビットの整数値の何れかが設定されていることを確

認することにより、メール送受信部119又はFAX送受信部120の何れかに対して受信通知を通知する。

【0212】

この通知と共に、パケット送受信部115は、受信したTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダから“送信元IPアドレス”を取り出し、上記TCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“データ”フィールドから“端末識別コード”と、メール受信要求コマンド又はFAX受信要求コマンドの何れかを取り出して、それらのデータをメール送受信部119又はFAX送受信部120の何れかに引き渡す。

【0213】

メール送受信部119又はFAX送受信部120は、メール受信要求コマンド又はFAX受信要求コマンドを取り込むと、それと共に移動端末101から転送されてきた“端末識別コード”に対応するスプールファイルから、その移動端末101を宛先として受信された電子メール文章データ又はFAX文章データを取り出し、それを後述するようにしてパケット送受信部115を介して移動端末101へ向けて送信する。

【0214】

このTCP/IPパケットは、それを構成するIPデータグラムのIPヘッダに格納されている“宛先IPアドレス”に基づいて、音声サービスプロバイダ内のルータ装置106と、インターネット105内の特には図示しない中継ホスト装置によって、移動端末制御ホスト装置104内のルーティング部114まで転送された後、更に、PHS網103（図1）を介して移動端末101の通信部111内の通信制御部321（図3）まで転送される。

【0215】

移動端末101の通信部111内の通信制御部321は、転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダの“宛先IPアドレス”フィールドに自分である移動端末101（に一時的又は動的）に割当てられているIPアドレスが設定されていることを識別することによって、そのTCP/IPパケットを受信する。

【0216】

そして、通信制御部321は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドにメール受信プロトコルを特定する16ビットの整数値又はFAX通信プロトコルを特定する16ビットの整数値の何れかが設定されていることを確認することにより、移動端末101の制御部110内のCPU316に対して受信通知を通知する。

【0217】

この通知と共に、通信制御部321は、受信したTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“データ”フィールドから電子メール文章データ又はFAX文章データを取り出し、それをCPU316に引き渡す。

【0218】

CPU316は、上述の受信通知と電子メール文章データ又はFAX文章データを、前述した図4のステップ411又は413の判定処理に基づいて実行されるステップ412又は414で処理し、その電子メール文章データ又はFAX文章データをLCD表示部311（図2の203）に表示する。

＜移動端末通信制御部116、文音声認識部117、及びフォーマット文章作成部118の概略動作＞

次に、音声制御ホスト装置108内の移動端末通信制御部116、文音声認識部117、及びフォーマット文章作成部118の概略動作について説明する。

【0219】

移動端末通信制御部116は、文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドを送信した移動端末101に割当てられている“端末識別コード”（上記コマンドを転送してきたTCPセグメントに格納されている）毎に、図12に示されるデータ構造を有する処理端末登録テーブルにエントリを登録すると共に、フォーマット種類データに基づくフォーマット種類と、音声データの受信用のバッファファイル（音声バッファファイル）と、認識音声文章データの一時保存用のバッファファイル（文章バッファファイル）と、フォーマット文章データの送信用のバッファファイル（フォーマット文章バッファファイル）とを音声制御ホスト

装置108が管理するファイルシステム上に作成する。また、移動端末通信制御部116は、上記エントリとファイルの登録に成功すると、上記コマンドを転送してきたIPデータグラムに格納されていた“送信元IPアドレス”の移動端末101に向けて、送信許可データを返信する。

【0220】

移動端末通信制御部116は、それ以後移動端末101から受信した音声データを、その“送信元IPアドレス”（それを転送してきたIPデータグラムに格納されている）に対応する処理端末登録テーブルのエントリから特定される音声バッファファイルに追加書き込みする。

【0221】

文音声認識部117は、図12に示される処理端末登録テーブルのエントリ毎に、各エントリから特定される音声バッファファイルに音声データが受信されていればそれに対して文音声認識処理を実行し、その結果得られる認識音声文章データを上記各エントリに対応する文章バッファファイルに追加書き込みする。

【0222】

フォーマット文章作成部118（図1）は、図12に示される処理端末登録テーブルのエントリ毎に、各エントリから特定される文章バッファファイルに認識音声文章データが得られていればそれに対してフォーマット化を実行し、その結果得られるフォーマット文章データを上記各エントリに対応するフォーマット文章バッファファイルに追加書き込みする。

【0223】

また、移動端末通信制御部116は、処理端末登録テーブルのエントリ毎に、各エントリから特定されるフォーマット文章バッファファイルにフォーマット文章データが得られていれば、それを各エントリに登録されている“送信元IPアドレス”の移動端末101に向けて返信する。

【0224】

移動端末通信制御部116は、文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドを受信した処理端末登録テーブルのエントリ、又は最終アクセス時刻が現在時刻から一定時間前の時刻よりも更に前の時刻である処理端末登録テーブルのエン

トリについて、そのエントリの内容を削除し、それから特定される各バッファファイルを削除する。

＜移動端末通信制御部116の詳細動作＞

図9～図11は、上記機能を実現するために、移動端末通信制御部116が実行する制御動作を示す動作フローチャートである。この動作フローチャートは、移動端末通信制御部116を制御する特には図示しないプロセッサが、特には図示しない制御プログラムを実行する動作として実現される。

【0225】

まず、ステップ901で、音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115（図1）から受信通知が通知されたか否かが判定される。前述したように、パケット送受信部115は、インターネット105から転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラム/IPヘッダの“宛先IPアドレス”フィールドに自分である音声制御ホスト装置108のIPアドレスが設定されていることを識別することにより、そのTCP/IPパケットを受信し、かつ、それを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドに文音声認識/フォーマット化のための通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定されていることを確認することにより、移動端末通信制御部116に対して受信通知を通知する。この受信通知は、文音声認識/フォーマット化の開始要求コマンドとフォーマット種類データ、文音声認識/フォーマット化の対象である音声データ、又は文音声認識/フォーマット化の終了要求コマンドの何れかに関する受信通知である。

【0226】

パケット送受信部115から受信通知が通知されステップ901の判定がYESとなると、ステップ902で、パケット送受信部115から受信通知と共に引き渡されたデータが取り込まれる。この場合に、受信通知が、文音声認識/フォーマット化の開始要求コマンドの受信通知である場合には、“送信元IPアドレス”と“端末識別コード”と上記コマンドとフォーマット種類データとが取り込まれる。また、受信通知が、音声データの受信通知である場合には、“送信元IPアドレス”と音声データとが取り込まれる。更に、受信通知が、文音声認識/

フォーマット化の終了要求コマンドの受信通知である場合には、“端末識別コード”とそのコマンドとが取り込まれる。

【0227】

ステップ902の処理の後に、図9のステップ903、図10のステップ907、又は図10のステップ909の判定が順に検査され、何れかの判定結果がYESとなる。即ち、ステップ902でパケット送受信部115から引き渡されたデータが、文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドに関するものである場合はステップ903の判定がYESとなってステップ904～906が実行され、音声データに関するものである場合は図10のステップ907の判定がYESとなってステップ908が実行され、文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドに関するものである場合には図10のステップ909の判定がYESとなってステップ910と911が実行される。

【0228】

パケット送受信部115から受信通知が通知されておらずステップ901の判定がNOの場合、又は上述の各コマンド又は音声データの受信に対応する処理の後は、図11のステップ912と913でフォーマット文章データの送信処理が実行され、それに続くステップ914及び915で最終アクセス時刻が一定時間以上前である移動端末101との通信を終了させるための処理が行われた後、再び図9のステップ901の判定処理に戻る。

【0229】

ステップ901の判定がYESであり、ステップ902でパケット送受信部115から引き渡されたデータが文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドに関するものである場合において、ステップ903の判定がYESとなって実行されるステップ904～905の処理について説明する。

【0230】

まず、ステップ904では、音声データの受信用のバッファファイルである音声バッファファイルと、認識音声文章の一時保存用のバッファファイルである文章バッファファイルと、フォーマット文章データの送信用のバッファファイルであるフォーマット文章バッファファイルとが、音声制御ホスト装置108が管理

するファイルシステム上に作成される。

【0231】

次に、ステップ905では、移動端末通信制御部116内の特には図示しないメモリに記憶される図12に示されるデータ構造を有する処理端末登録テーブルに、1つのエントリ（横1行のデータ組）が確保される。そして、そのエントリに、“端末識別コード”と、“送信元IPアドレス”と、フォーマット種類データに基づくフォーマット種類と、最終アクセス時刻と、音声バッファファイル名と、文章バッファファイル名と、フォーマット文章バッファファイル名とが、登録される。“端末識別コード”は、ステップ902でパケット送受信部115から引き渡されたデータであり、移動端末101から転送されてきたTCP/IPパケットを構成するTCPセグメントの“データ”フィールドに格納されていたものである（図6(c) 参照）。“送信元IPアドレス”は、やはりステップ902においてパケット送受信部115から引き渡されたデータであり、移動端末101から転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダに格納されていたものである（図6(b)、図7(a) 参照）。最終アクセス時刻には、現在時刻が設定される。各バッファファイル名は、ステップ904で作成された各ファイルを示すファイル名である。

【0232】

ステップ905の処理の後、ステップ906では、ステップ902でパケット送受信部115から引き渡され処理端末登録テーブルの上記エントリに登録された“送信元IPアドレス”に向けて、送信許可データが返信される。

【0233】

具体的には、移動端末通信制御部116は、“送信元IPアドレス”への送信許可データの返信を、パケット送受信部115（図1）に対して依頼する。

この結果、パケット送受信部115は、まず、図6(c)に示されるフォーマットを有するTCPセグメントを生成する。この場合、図6(c)及び図7(b)に示されるフォーマットを有するTCPヘッダにおいて、“送信元ポート番号”フィールド及び“宛先ポート番号”フィールドには、文音声認識／フォーマット化のための通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定される。そして、T

CPセグメントの“データ”フィールドには、送信許可データが格納される。

【0234】

次に、パケット送受信部115は、上述のTCPセグメントが“データ”フィールドに格納された図6(b)に示されるフォーマットを有するIPデータグラムを生成する。この場合に、図6(b)及び図7(a)に示されるフォーマットを有するIPヘッダにおいて、“プロトコル”フォーマットには、その“データ”フィールドに格納されるTCPセグメントデータのフォーマットを規定する整数値6が設定される。また、“送信元IPアドレス”フィールドには、音声制御ホスト装置108に割当てられているIPアドレスが設定される。更に、“宛先IPアドレス”フィールドには、図9のステップ902でパケット送受信部115から引き渡された“送信元IPアドレス”が設定される。

【0235】

そして、パケット送受信部115は、上述のIPデータグラムが格納されたLAN107上のプロトコルに従ったフレームを生成し、それをLAN107に送出する。例えば、LAN107がイーサネット方式によるローカルエリアネットワークであれば、上記フレームは、イーサネットフレームである。

【0236】

上記フレームとIPデータグラムとTCPセグメントとから構成されるTCP/IPパケットは、それを構成するIPデータグラムのIPヘッダに格納されている“宛先IPアドレス”に基づいて、ルータ装置106及びインターネット105を介して移動端末制御ホスト装置104まで転送された後、更に、PHS網103及び無線基地（又は有線接続装置）102を介して、移動端末101の通信部111内の通信制御部321（図3）まで転送される。

【0237】

これ以降、移動端末101から音声制御ホスト装置108へは、前述したようにして、音声データが転送されてくる。

ステップ906の処理の後には、図11のステップ912と913でフォーマット文章データの送信処理が実行され、それに続くステップ914及び915で最終アクセス時刻が一定時間以上前である移動端末101との通信を終了させるた

めの処理が行われた後、再び図9のステップ901の判定処理に戻る。

【0238】

次に、図9のステップ901の判定がYESであり、ステップ902でパケット送受信部115から引き渡されたデータが音声データである場合において、図10のステップ907の判定がYESとなって実行されるステップ908の処理について説明する。

【0239】

即ち、ステップ908では、図9のステップ902でパケット送受信部115から引き渡されたのと同じ“送信元IPアドレス”が記憶されている処理端末登録テーブル（図12）のエントリが検索され、該当するエントリに記憶されている音声バッファファイル名に対応する音声バッファファイル（図9のステップ904参照）に、図9のステップ902でパケット送受信部115から引き渡された音声データが追加書き込みされる。なお、追加書き込み時の音声バッファファイルのサイズは、音声制御ホスト装置108が管理するファイルシステムによって自動的に調整される。

【0240】

また、ステップ908では、上記該当するエントリに記憶されている最終アクセス時刻が、現在時刻に更新される。

このようにして、移動端末101毎（“端末識別コード”毎）の音声バッファファイルを介して、移動端末通信制御部116から文音声認識部117（図1）に音声データが引き渡される。文音声認識部117は、後述するように、図12に示される処理端末登録テーブルのエントリ毎に、各エントリから特定される音声バッファファイルに音声データが受信されていればそれに対して文音声認識処理を実行し、その結果得られる認識音声文章データを上記各エントリに対応する文章バッファファイルに追加書き込みすることになる。更に、フォーマット文章作成部118（図1）は、後述するように、図12に示される処理端末登録テーブルのエントリ毎に、各エントリから特定される文章バッファファイルに認識音声文章データが得られていればそれに対してフォーマット化を実行し、その結果得られるフォーマット文章データを上記各エントリに対応するフォーマット文章

バッファファイルに追加書き込みすることになる。

【0241】

ステップ908の処理の後、図11のステップ912と913でフォーマット文章データの送信処理が実行され、それに続くステップ914及び915で最終アクセス時刻が一定時間以上前である移動端末101との通信を終了させるための処理が行われた後、再び図9のステップ901の判定処理に戻る。

【0242】

次に、図9のステップ901の判定がYESであり、ステップ902でパケット送受信部115から引き渡されたデータが文音声認識／フォーマット化の終了要求コマンドに関するものである場合において、図10のステップ909の判定がYESとなって実行されるステップ910と911の処理について説明する。

【0243】

まず、ステップ910で、図9のステップ902でパケット送受信部115から引き渡されたのと同じ“端末識別コード”が記憶されている処理端末登録テーブル（図12）のエントリの内容が全て削除される。

【0244】

次に、ステップ911で、上記エントリに記憶されていた音声バッファファイル名、文章バッファファイル名、及びフォーマット文章バッファファイル名に対応する各バッファファイルが、音声制御ホスト装置108が管理するファイルシステム上から削除される。

【0245】

ステップ911の処理の後、図11のステップ912と913でフォーマット文章データの送信処理が実行され、それに続くステップ914及び915で最終アクセス時刻が一定時間以上前である移動端末101との通信を終了させるための処理が行われた後、再び図9のステップ901の判定処理に戻る。

【0246】

パケット送受信部115から受信通知が通知されておらず図9のステップ901の判定がNOの場合、又は上述の各コマンド又は音声データの受信に対応する処理の後に実行される、図11のステップ912と913の処理、及びそれに続く

くステップ914と915の処理について説明する。

【0247】

これらの処理において、フォーマット文章作成部118から得られているフォーマット文章データの送信処理が実行される。

まず、ステップ912では、処理端末登録テーブル（図12）において、フォーマット文章バッファファイル名に対応するフォーマット文章バッファファイルにフォーマット文章データが存在するエントリがあるか否かが判定される。

【0248】

そのようなエントリが無くステップ912の判定がNOの場合には、ステップ913でのフォーマット文章データの送信処理は実行されずに、ステップ914及び915の処理に進む。

【0249】

上述のようなエントリが1つ以上存在しステップ912の判定がYESの場合には、ステップ913で、該当するエントリ毎に、そのエントリに記憶されている“送信元IPアドレス”に向けて、そのエントリに記憶されているフォーマット文章バッファファイル名に対応するフォーマット文章バッファファイル内のフォーマット文章データが送信され、その送信されたフォーマット文章データが上記フォーマット文章バッファファイルから削除される。なお、削除時のフォーマット文章バッファファイルのサイズは、音声制御ホスト装置108が管理するファイルシステムによって自動的に調整される。

【0250】

上述のステップ913の処理の後又はステップ912の判定がNOである場合に、ステップ914が実行される。ここでは、処理端末登録テーブル（図12）のエントリのうち、最終アクセス時刻が現在時刻から一定時間前の時刻より更に前の時刻であるエントリが検出され、そのエントリの内容が全て削除される。

【0251】

また、ステップ915で、上記エントリに記憶されていた音声バッファファイル名、文章バッファファイル名、及びフォーマット文章バッファファイル名に対応する各バッファファイルが、音声制御ホスト装置108が管理するファイルシ

ステム上から削除される。

【0252】

ステップ915の処理の後、再び図9のステップ901の判定処理に戻る。

＜文音声認識部117の詳細動作＞

図13は、文音声認識部117の機能ブロック図である。

【0253】

この文音声認識部117は、前述したように、図12に示される処理端末登録テーブルのエントリ毎に、各エントリから特定される音声バッファファイルに音声データが受信されていればそれに対して文音声認識を実行し、その結果得られる認識音声文章データを上記各エントリに対応する文章バッファファイルに追加書き込みする。

【0254】

上述のエントリ毎の音声バッファファイルからの音声データの読出しと文章バッファファイルへの認識音声文章データの書込みは、図13の入出力制御部1309が制御する。まず、この入出力制御部1309の制御動作につき説明する。図14は、入出力制御部1309が実行する制御動作を示す動作フローチャートである。この動作フローチャートは、入出力制御部1309を制御する特には図示しないプロセッサが、特には図示しない制御プログラムを実行する動作として実現される。

【0255】

まず、ステップ1401では、処理端末登録テーブル（図12）において、音声バッファファイル名に対応する音声バッファファイルに音声データが記憶されているエントリが存在するか否かが判定される。

【0256】

そのようなエントリが存在しステップ1401の判定がYESならば、ステップ1402で、該当するエントリ毎に、そのエントリに記憶されている“端末識別コード”と、そのエントリに記憶されている音声バッファファイル名に対応する音声バッファファイル上の音声データとが、図13の入力バッファキュー1301に書き込まれ、その音声データが音声バッファファイルから削除される。

【0257】

入力バッファキュー1301は、それがキューイングしている音声データを、音声区間検出部1302に順次流し込む機能を有する。音声区間検出部1302以降に接続されている音声分析部1303、音素認識部1304、単語認識部1306、及び文章認識部1307は、データ処理パイプラインを形成しており、相互に独立して、入力データを処理する機能を有する。また、1302～1307の各部分は、現在処理している音声データに対応する“端末識別コード”（入力バッファキュー1301から入力される）を認識することができる。従って、最終的に文章認識部1307から出力バッファキュー1308へは、“端末識別コード”と認識音声文章データとの組が出力されることになる。

【0258】

ステップ1402の処理の後又はステップ1401の判定がNOの場合には、ステップ1403で、図13の出力バッファキュー1308に、“端末識別コード”と認識音声文章データの組が得られているか否かが判定される。

【0259】

そのような組が得られておりステップ1403の判定がYESならば、ステップ1404で、出力バッファキュー1308内の組毎に、その組の“端末識別コード”に対応する処理端末登録テーブルのエントリについて、そのエントリに記憶されている文章バッファファイル名に対応する文章バッファファイルに、出力バッファキュー1308内の組の認識音声文章データが追加書き込みされる。

【0260】

ステップ1404の処理の後又はステップ1403の判定がNOの場合には、再びステップ1401の判定処理が実行される。

以上のようにして文音声認識部117は、流れ作業的に効率良く、複数の移動端末101から要求された音声データに対する文音声認識処理を実行することができる。

【0261】

次に、文音声認識処理を実現するための1302～1307の各部分の機能につき、以下に説明する。なお、以下に説明する各方式は、例えば、文献「電子・

情報工学入門シリーズ2 音響・音声工学」(古井著、近代科学社)第14章」を参照することにより、実現することができる。

【0262】

音声区間検出部1302は、入力バッファキュー1301から入力される音声データのサンプル時系列について、音声が存在する区間を検出する。より具体的には、音声区間検出部1302は、所定サンプル(例えば8kHzサンプリングデータについて32乃至256サンプル)ずつの平均パワー(電力)を計算し、その平均パワーが所定の閾値を超えた状態が所定回数以上連続して続く区間を、音声区間として検出する。これにより、音声が存在しない区間で文音声が誤認識されてしまうのを防ぐことができる。

【0263】

音声分析部1303は、音声区間検出部1302から出力される音声データについて、その特徴分析を行うことによって、特徴量パラメータベクトルを検出する。音声分析方式としては、以下の周知の分析方式の何れかを採用することができる。

(1) 音声データ時系列を入力とする帯域フィルタバンクの各出力を平滑化し、それらの平滑化された各出力を特徴量パラメータベクトルの要素とする方式。

(2) 連続する所定サンプルずつの音声データ時系列を入力とする高速フーリエ変換(FFT)によって計算した各短時間スペクトル成分を平滑化し、それらの平滑化された各成分値を特徴量パラメータベクトルの要素とする方式。

(3) 連続する所定サンプルずつの音声データ時系列を入力とするケプストラム分析によってケプストラム係数群を計算し、それらを特徴量パラメータベクトルの要素とする方式。

(4) 上記(3)のケプストラム係数群に加えて、それらに対する Δ (デルタ)ケプストラム(ケプストラムの微係数)群を計算し、それらを特徴量パラメータベクトルの要素に加える方式。

(5) 連続する所定サンプルずつの音声データ時系列を入力とする線形予測分析(LPC分析、更に具体的には線スペクトル対分析:LSP分析)によって、LPC(LSP)係数群を計算し、それらを特徴量パラメータベクトルの要素とす

る方式。

(6) 連続する所定サンプルずつの音声データ時系列を入力とする自己相関分析によって自己相関関数を計算し、それらに基づいて検出される音声のピッチ基本周波数パターンを特徴量パラメータベクトルの1つの要素に加える方式。

次に、音素認識部1304は、所定フレーム周期(所定サンプル)毎に音声分析部1303から出力される特徴量パラメータベクトルと、音素標準パターン辞書1305に蓄積されている各音素の特徴量パラメータベクトルの標準パターンとの類似度(距離)を計算し、その結果所定フレーム周期毎に得られる類似度の高い音素の組をその類似度と共に音素ラティスデータとして出力する。音素認識部1304は、音素の認識誤りの発生を回避するために、所定フレーム周期毎に最終的な音素を決定することはせずに、音素候補を表にした音素ラティスデータの形式で結果データを出力する。

【0264】

単語認識部1306は、所定フレーム周期毎に音素認識部1304から出力される音素ラティスデータを入力として、所定フレーム周期毎に単語候補を表にして単語ラティスデータを出力する。単語認識方式としては、以下の周知の分析方式の何れかを採用することができる。

(1) 単語認識部1306は、音素認識部1304から出力される複数のフレーム周期にまたがる音素ラティスデータの時系列と、単語辞書に蓄積されている全音素標準パターン系列とで、時間正規化(DPマッチング or DTW: Dynamic Time Warping)を実行し、単語ラティスデータを出力する。この場合も、単語認識部1306は、単語の認識誤りの発生を回避するために、所定フレーム周期毎に最終的な単語を決定することはせずに、単語候補を表にした単語ラティスデータの形式で結果データを出力する。

(2) 単語認識部1306は、HMM(Hidden Markov Model)によって、全単語をモデル化し、音素認識部1304から出力される複数のフレーム周期にまたがる音素ラティスデータの時系列をHMM分析部に入力し、生起確率の大きいものから複数個のモデルに対応する各単語を、単語候補である単語ラティスデータとして出力する。

最後に、文章認識部1307は、その第1段処理として、単語認識部1306から出力される単語ラティスデータを順次入力し、日本語（英語でもよい）の文節構造に関する文節内文法（語順規則）に従って、種々の文節の可能性を文節ラティスデータとして算出する。そして、文章認識部1307は、その第2段処理として、文節間文法に従って文節間の意味的な係り受けを解析し、認識音声文章データを決定し、それを、入力バッファキュー1301から順次伝達されてきた“端末識別コード”と対について、出力バッファキュー1308に書き込む。

＜フォーマット文章作成部118の詳細動作＞

図15は、フォーマット文章作成部118の機能ブロック図である。

【0265】

このフォーマット文章作成部118は、前述したように、図12に示される処理端末登録テーブルのエントリ毎に、各エントリから特定される文章バッファファイルに文音声認識部117によって認識音声文章データが得られていればそれに対してフォーマット化を実行し、その結果得られるフォーマット文章データを上記各エントリに対応するフォーマット文章バッファファイルに追加書き込みする。

【0266】

上述のエントリ毎の文章バッファファイルからの認識音声文章データの読出しとフォーマット文章バッファファイルへのフォーマット文章データの書込みは、図15の入出力制御部1507が制御する。まず、この入出力制御部1507の制御動作につき説明する。図16は、入出力制御部1507が実行する制御動作を示す動作フローチャートである。この動作フローチャートは、入出力制御部1507を制御する特には図示しないプロセッサが、特には図示しない制御プログラムを実行する動作として実現され、前述した、文音声認識部117内の図13に示される入出力制御部1309と同様の制御動作を実現する。

【0267】

まず、ステップ1601では、処理端末登録テーブル（図12）において、文章バッファファイル名に対応する文章バッファファイルに認識音声文章データが記憶されているエントリが存在するか否かが判定される。

【0268】

そのようなエントリが存在しステップ1601の判定がYESならば、ステップ1602で、該当するエントリ毎に、そのエントリに記憶されている“端末識別コード”と、そのエントリに記憶されている文章バッファファイル名に対応する文章バッファファイル上の認識音声文章データとが、図15の入力バッファキュー1501に書き込まれ、その認識音声文章データが文章バッファファイルから削除される。

【0269】

入力バッファキュー1501は、それがキューイングしている認識音声文章データを、フィールド認識部1502に順次流し込む機能を有する。フィールド認識部1502以降に接続されている不要語削除部1504及びフォーマット文章データ作成部1506は、図13に示される文音声認識部117の構成の場合と同様に、データ処理パイプラインを形成しており、相互に独立して、入力データを処理する機能を有する。また、1502～1506の各部分は、現在処理している認識音声文章データに対応する“端末識別コード”（入力バッファキュー1501から入力される）を認識することができる。従って、最終的にフォーマット文章データ作成部1506から出力バッファキュー1507へは、“端末識別コード”とフォーマット文章データとの組が出力されることになる。

【0270】

ステップ1602の処理の後又はステップ1601の判定がNOの場合には、ステップ1603で、図15の出力バッファキュー1507に、“端末識別コード”とフォーマット文章データの組が得られているか否かが判定される。

【0271】

そのような組が得られておりステップ1603の判定がYESならば、ステップ1604で、出力バッファキュー1507内の組毎に、その組の“端末識別コード”に対応する処理端末登録テーブルのエントリについて、そのエントリに記憶されているフォーマット文章バッファファイル名に対応するフォーマット文章バッファファイルに、出力バッファキュー1507内の組のフォーマット文章データが追加書き込みされる。

【0272】

ステップ1604の処理の後又はステップ1603の判定がNOの場合には、再びステップ1601の判定処理が実行される。

以上のようにしてフォーマット文章作成部118は、文音声認識部117の場合と同様に、流れ作業的に効率良く、複数の移動端末101からの要求に基づいて文音声認識部117において得られた認識音声文章データに対するフォーマット化を実行することができる。

【0273】

次に、フォーマット化を実現するための1502～1505の各部分の機能につき、以下に説明する。

フィールド認識部1502は、入力バッファキュー1501から順次入力される“端末識別コード”と認識音声文章データとの組のそれぞれについて、その組の“端末識別コード”に対応する処理端末登録テーブルのエントリに記憶されているフォーマット種類を判別し、フォーマット種類別フィールド辞書1503を参照しながら、上記組の認識音声文章データのフィールドを判別し、そのフィールド情報と上記“端末識別コード”及び認識音声文章データの組を不要語削除部1504に出力する。

【0274】

具体的には、フォーマット種類別フィールド辞書1503には、フォーマット種類別に、フィールド名と、そのフィールド名に関連するキーワードとが記憶されている。そして、フィールド認識部1502は、まず、処理端末登録テーブルから得たフォーマット種類によってフォーマット種類別フィールド辞書1503上で参照する検索範囲を指定し、その範囲から、認識音声文章データに含まれる単語がキーワードとして登録されているフィールド名を検索し、それを認識音声文章データのフィールドであると判定する。

【0275】

例えば、移動端末101のユーザは、電子メールを作成したい場合に、文音声認識／フォーマット化の開始要求コマンドと共にフォーマット種類データとして“電子メール”を指定する。その後ユーザは、“宛先はtaro@casio.co.jpです”

“カーボンコピーはhanako@osuga.co.jpです” “本文は・・・・・・です”などと順次発音する。これらの発音内容は、音声制御ホスト装置108内の文音声認識部117によって認識音声文章データとして認識される。また、ユーザは、FAXを作成したい場合は、“宛先番号は0425の79の7735です” “本文は・・・・・・です”などと順次発音する。

【0276】

そして、フォーマット文章作成部118は、例えば認識音声文章データ“宛先はtaro@casio.co.jpです”を入力した場合、まず、フォーマット種類データ“電子メール”により、フォーマット種類別フィールド辞書1503上の“電子メール”フォーマットに対応する検索範囲を指定する。そして、フォーマット文章作成部118は、その検索範囲から、認識音声文章データに含まれる単語“宛先”がキーワードとして登録されているフィールド名“宛先”を検索し、それを認識音声文章データのフィールドであると判定する。なお、フォーマット種類別フィールド辞書1503の上述の検索範囲のフィールド名“宛先”には、キーワード“宛先”のみならず、“あてさき”“宛先アドレス”“あてさきアドレス”“相手”“あいて”“相手アドレス”“あいてアドレス”等のキーワードも登録されている。これにより、“宛先”フィールドに対するユーザによる様々な指定方法に対処できる。

【0277】

認識音声文章データが、“カーボンコピーはhanako@osuga.co.jpです” “本文は・・・・・・です” “宛先番号は0425の79の7735です”等である場合も、全く同様である。

【0278】

更に、フォーマット種類が、アドレス帳やスケジュール帳やメモ帳等である場合にも、全く同様に処理できる。

続いて、不要語削除部1504は、フィールド認識部1502から出力されるフィールド情報と“端末識別コード”及び認識音声文章データの組について、不要語辞書1505を参照することにより、認識音声文章データから、“は”“です”等の不要語を削除し、その結果得られる認識音声文章データを、上記フィー

ルド情報及び“端末識別コード”と共に、フォーマット文章データ作成部1506に出力する。

【0279】

その結果、フォーマット文章データ作成部1506は、入力されたフィールド情報と認識音声文章データとに基づいて、フォーマット文章データを作成し、それを、入力された“端末識別コード”と共に、出力バッファキュー1507に書き込む。例えば、フォーマット種類が電子メールである場合には、“To:taro@casio.co.jp” “Cc:hanako@osuga.co.jp” “本文：・・・・”などのフォーマット文章データが作成され、フォーマット種類がFAXである場合には、“宛先番号：0425-79-7735” “本文：・・・・”などのフォーマット文章データが作成される。

＜メール送受信部119の動作＞

図17は、音声制御ホスト装置108内のメール送受信部119が実行する制御動作を示す動作フローチャートである。この動作フローチャートは、メール送受信部119を制御する特には図示しないプロセッサが、特には図示しない制御プログラムを実行する動作として実現される。

【0280】

まず、ステップ1701で、音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115（図1）から受信通知が通知されたか否かが判定される。前述のように、パケット送受信部115は、インターネット105から転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラム/IPヘッダの“宛先IPアドレス”フィールドに自分である音声制御ホスト装置108のIPアドレスが設定されていることを識別することにより、そのTCP/IPパケットを受信し、かつ、それを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドにメール送信プロトコル又はメール受信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定されていることを確認することにより、メール送受信部119に対して受信通知を通知する。この受信通知は、送信用の電子メール文章データ又は受信要求用のメール受信要求コマンドの何れかに関する受信通知である。

【0281】

パケット送受信部115から受信通知が通知されステップ1701の判定がYESとなると、ステップ1702で、パケット送受信部115から受信通知と共に引き渡されたデータが取り込まれる。この場合に、受信通知が、送信用の電子メール文章データの受信通知である場合には、“送信元IPアドレス”と上記電子メール文章データとが取り込まれる。また、受信通知が、メール受信要求コマンドの受信通知である場合には、“送信元IPアドレス”と“端末識別コード”と上記コマンドとが取り込まれる。

【0282】

ステップ1702の処理の後に、ステップ1703及びステップ1705の判定が順に検査され、何れかの判定結果がYESとなる。即ち、ステップ1702でパケット送受信部115から引き渡されたデータが、送信用の電子メール文章データに関するものである場合はステップ1703の判定がYESとなってステップ1704のメール送信処理が実行され、メール受信要求コマンドに関するものである場合はステップ1705の判定がYESとなってステップ1706の受信メール転送処理が実行される。

【0283】

パケット送受信部115から受信通知が通知されておらずステップ1701の判定がNOの場合は、待機状態となる。

ステップ1701の判定がYESであり、ステップ1702でパケット送受信部115から引き渡されたデータが送信用の電子メール文章データに関するものである場合において、ステップ1703の判定がYESとなって実行されるステップ1704の送信処理について説明する。

【0284】

ステップ1704では、メール送受信部119は、パケット送受信部115を介して音声制御ホスト装置108上、LAN107上、又はインターネット105上の特には図示しない名前解決サーバ（ホスト装置）に問い合わせることにより、移動端末101からパケット送受信部115を介して取り込んだ電子メール文章データのToフィールド及びCcフィールドに設定されている電子メールアドレス

スをIPアドレスに変換した後、そのIPアドレスへの電子メール文章データの送信を、パケット送受信部115に依頼する。

【0285】

パケット送受信部115は、まず、図6(c)に示されるフォーマットを有するTCPセグメントを生成する。この場合に、図6(c)及び図7(b)に示されるフォーマットを有するTCPヘッダにおいて、“送信元ポート番号”フィールド及び“宛先ポート番号”フィールドには、メール送信プロトコル(例えば、SMTP)を特定する16ビットの整数値が設定される。そして、TCPセグメントの“データ”フィールドには、メール送信プロトコルに基づくメール送信コマンド又は/及び電子メール文章データが格納される。

【0286】

次に、パケット送受信部115は、上述のTCPセグメントが“データ”フィールドに格納された図6(b)に示されるフォーマットを有するIPデータグラムを生成する。この場合に、図6(b)及び図7(a)に示されるフォーマットを有するIPヘッダにおいて、“プロトコル”フィールドには、その“データ”フィールドに格納されるTCPセグメントデータのフォーマットを規定する整数値6が設定される。また、“送信元IPアドレス”フィールドには、音声制御ホスト装置108に割当てられているIPアドレスが設定される。更に、“宛先IPアドレス”フィールドには、電子メール文章データのToフィールド及びCcフィールドに対応するIPアドレスが設定される。なお、“宛先IPアドレス”が複数になる場合には、複数のTCP/IPパケットが複製されて送信される。

【0287】

そして、パケット送受信部115は、上述のIPデータグラムが格納されたLAN107上のプロトコルに従ったフレームを生成し、それをLAN107に送出する。例えば、LAN107がイーサネット方式によるローカルエリアネットワークであれば、上記フレームは、イーサネットフレームである。

【0288】

上記フレームとIPデータグラムとTCPセグメントとから構成されるTCP/IPパケットは、それを構成するIPデータグラムのIPヘッダに格納されて

いる“宛先IPアドレス”に基づいて、宛先のホスト装置まで転送される。

【0289】

次に、ステップ1701の判定がYESであり、ステップ1702でパケット送受信部115から引き渡されたデータがメール受信要求コマンドに関するものである場合において、ステップ1705の判定がYESとなって実行されるステップ1706の受信メール転送処理について説明する。

【0290】

ステップ1706では、メール送受信部119は、ステップ1702でパケット送受信部115から取り込んだ“端末識別コード”に対応するスプールファイルから、それに対応する移動端末101を宛先として受信されている電子メール文章データをその移動端末101へ送信することを、パケット送受信部115に依頼する。

【0291】

パケット送受信部115は、まず、図6(c)に示されるフォーマットを有するTCPセグメントを生成する。この場合に、図6(c)及び図7(b)に示されるフォーマットを有するTCPヘッダにおいて、“送信元ポート番号”フィールド及び“宛先ポート番号”フィールドには、メール受信プロトコル（例えば、POP3）を特定する16ビットの整数値が設定される。そして、TCPセグメントの“データ”フィールドには、スプールから取り出された電子メール文章データが格納される。なお、移動端末101のユーザからの設定により、上記取り出し後にスプールの内容を削除するか否かが決定される。

【0292】

次に、パケット送受信部115は、上述のTCPセグメントが“データ”フィールドに格納された図6(b)に示されるフォーマットを有するIPデータグラムを生成する。この場合に、図6(b)及び図7(a)に示されるフォーマットを有するIPヘッダにおいて、“プロトコル”フォーマットには、その“データ”フィールドに格納されるTCPセグメントデータのフォーマットを規定する整数値6が設定される。また、“送信元IPアドレス”フィールドには、音声制御ホスト装置108に割当てられているIPアドレスが設定される。更に、“宛先IPア

ドレス”フィールドには、ステップ1702でパケット送受信部115から取り込んだ“送信元IPアドレス”が設定される。この“送信元IPアドレス”は、メール受信要求コマンドが格納されていたTCP/IPパケットに設定されていた、上記コマンドを送信した移動端末101に対応するアドレスである。

【0293】

そして、パケット送受信部115は、上述のIPデータグラムが格納されたLAN107上のプロトコルに従ったフレームを生成し、それをLAN107に送出する。例えば、LAN107がイーサネット方式によるローカルエリアネットワークであれば、上記フレームは、イーサネットフレームである。

【0294】

上記フレームとIPデータグラムとTCPセグメントとから構成されるTCP/IPパケットは、それを構成するIPデータグラムのIPヘッダに格納されている“宛先IPアドレス”に基づいて、ルータ装置106及びインターネット105を介して移動端末制御ホスト装置104まで転送された後、更に、PHS網103及び無線基地（又は有線接続装置）102を介して、移動端末101の通信部111内の通信制御部321（図3）まで転送される。

<FAX送受信部120の動作>

図18は、音声制御ホスト装置108内のFAX送受信部120が実行する制御動作を示す動作フローチャートである。この動作フローチャートは、FAX送受信部120を制御する特には図示しないプロセッサが、特には図示しない制御プログラムを実行する動作として実現される。この動作フローチャートは、FAX文章データの転送媒体がインターネット105でなく電話回線121（図1）である点が異なるが、図17に示されるメール送受信部119に対応する動作フローチャートと同様の機能を有する。

【0295】

まず、ステップ1801で、音声制御ホスト装置108内のパケット送受信部115（図1）から受信通知が通知されたか否かが判定される。前述のように、パケット送受信部115は、インターネット105から転送されてきたTCP/IPパケットを構成するIPデータグラムのIPヘッダの“宛先IPアドレス”

フィールドに自分である音声制御ホスト装置108のIPアドレスが設定されていることを識別することにより、そのTCP/IPパケットを受信し、かつ、それを構成するTCPセグメントの“宛先ポート番号”フィールド及び“送信元ポート番号”フィールドにFAX通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定されていることを確認することにより、FAX送受信部120に対して受信通知を通知する。この受信通知は、送信用のFAX文章データ又は受信要求用のFAX受信要求コマンドの何れかに関する受信通知である。

【0296】

パケット送受信部115から受信通知が通知されステップ1801の判定がYESとなると、ステップ1802で、パケット送受信部115から受信通知と共に引き渡されたデータが取り込まれる。この場合に、受信通知が、送信用のFAX文章データの受信通知である場合には、“送信元IPアドレス”と上記FAX文章データとが取り込まれる。また、受信通知が、FAX受信要求コマンドの受信通知である場合には、“送信元IPアドレス”と“端末識別コード”と上記コマンドとが取り込まれる。

【0297】

ステップ1802の処理の後に、ステップ1803及びステップ1805の判定が順に検査され、何れかの判定結果がYESとなる。即ち、ステップ1802でパケット送受信部115から引き渡されたデータが、送信用のFAX文章データに関するものである場合はステップ1803の判定がYESとなってステップ1804のメール送信処理が実行され、FAX受信要求コマンドに関するものである場合はステップ1805の判定がYESとなってステップ1806の受信メール転送処理が実行される。

【0298】

パケット送受信部115から受信通知が通知されておらずステップ1801の判定がNOの場合は、待機状態となる。

ステップ1801の判定がYESであり、ステップ1802でパケット送受信部115から引き渡されたデータが送信用のFAX文章データに関するものである場合において、ステップ1803の判定がYESとなって実行されるステップ

1804の送信処理について説明する。

【0299】

ステップ1804では、FAX送受信部120は、電話回線121（図1）に対して、移動端末101からパケット送受信部115を介して取り込んだFAX文章データの宛先番号フィールドに設定されている宛先番号をダイヤルし、着信した相手FAX装置に上記FAX文章データを送信する。なお、宛先番号フィールドに複数の宛先番号が設定されている場合には、複数のFAX文章データが複製されて各宛先番号のFAX装置に送信される。

【0300】

次に、ステップ1801の判定がYESであり、ステップ1802でパケット送受信部115から引き渡されたデータがFAX受信要求コマンドに関するものである場合において、ステップ1805の判定がYESとなって実行されるステップ1806の受信メール転送処理について説明する。

【0301】

ステップ1806では、FAX送受信部120は、ステップ1802でパケット送受信部115から取り込んだ“端末識別コード”に対応するスプールファイルから、それに対応する移動端末101を宛先として受信されているFAX文章データをその移動端末101へ送信することを、パケット送受信部115に依頼する。

【0302】

パケット送受信部115は、まず、図6(c)に示されるフォーマットを有するTCPセグメントを生成する。この場合に、図6(c)及び図7(b)に示されるフォーマットを有するTCPヘッダにおいて、“送信元ポート番号”フィールド及び“宛先ポート番号”フィールドには、FAX通信プロトコルを特定する16ビットの整数値が設定される。そして、TCPセグメントの“データ”フィールドには、スプールから取り出されたFAX文章データが格納される。なお、移動端末101のユーザからの設定により、上記取り出し後にスプールの内容を削除するか否かが決定される。

【0303】

次に、パケット送受信部 115 は、上述の TCP セグメントが“データ”フィールドに格納された図 6 (b) に示されるフォーマットを有する IP データグラムを生成する。この場合に、図 6 (b) 及び図 7 (a) に示されるフォーマットを有する IP ヘッダにおいて、“プロトコル”フォーマットには、その“データ”フィールドに格納される TCP セグメントデータのフォーマットを規定する整数値 6 が設定される。また、“送信元 IP アドレス”フィールドには、音声制御ホスト装置 108 に割当てられている IP アドレスが設定される。更に、“宛先 IP アドレス”フィールドには、ステップ 1802 でパケット送受信部 115 から取り込んだ“送信元 IP アドレス”が設定される。この“送信元 IP アドレス”は、FAX 受信要求コマンドが格納されていた TCP/IP パケットに設定されていた、上記コマンドを送信した移動端末 101 に対応するアドレスである。

【0304】

そして、パケット送受信部 115 は、上述の IP データグラムが格納された LAN 107 上のプロトコルに従ったフレームを生成し、それを LAN 107 に送出する。例えば、LAN 107 がイーサネット方式によるローカルエリアネットワークであれば、上記フレームは、イーサネットフレームである。

【0305】

上記フレームと IP データグラムと TCP セグメントとから構成される TCP/IP パケットは、それを構成する IP データグラムの IP ヘッダに格納されている“宛先 IP アドレス”に基づいて、ルータ装置 106 及びインターネット 105 を介して移動端末制御ホスト装置 104 まで転送された後、更に、PHS 網 103 及び無線基地（又は有線接続装置）102 を介して、移動端末 101 の通信部 111 内の通信制御部 321（図 3）まで転送される。

<他の実施の形態>

以上説明した実施の形態では、移動端末 101 は、PHS 端末であって、移動端末 101 と音声制御ホスト装置 108 とは、PHS 網 103 とインターネット 105 を介して接続されている。しかし、本発明は、これに限られるものではなく、無線又は有線によって間接的又は直接的に音声制御ホスト装置 108 に接続される形態であれば、どのような形態であっても本発明をそれに適用することが

できる。

【0306】

また、例えば電子メールアドレス又はFAX宛先番号の入力において、音声制御ホスト装置108のフォーマット文章作成部118内にアドレスデータベースを構築しておき、移動端末101側で氏名等を発音した場合にその氏名等を認識しそれによって上記アドレスデータベースを参照することにより、上記氏名等を電子メールアドレス又はFAX宛先番号に変換しそれを含む電子メール文章データ又はFAX文章データを作成し、それを移動端末101に返すように構成されてもよい。

【0307】

【発明の効果】

本発明によれば、移動端末は、高度な音声認識環境を設備する必要がなく実用的な精度を有する音声認識機能及び電子メール・FAX自動作成機能の提供を低コストで受けることが可能となる。

【0308】

また、本発明によれば、現在全国的及び全世界的に普及しつつあるパーソナルハンディホンシステム通信網及びインターネットを経由することにより、実用的な精度を有する音声認識機能及び電子メール・FAX自動作成機能の提供をより低コスト及び手軽に受けることができると同時に、本発明が提供する機能とパーソナルハンディホンシステム通話機能及びインターネットアクセス機能とを、シームレスに結合することが可能となる。

【0309】

更に、本発明によれば、移動端末と音声制御ホスト装置とを全世界的に容易に特定できると共に、音声認識／電子メール・FAX自動作成処理サービスと他の情報処理サービスとの共存を容易に実現することが可能となる。

【0310】

また、本発明によれば、ホスト装置側の負荷分散を容易に実現することが可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】

全体システム構成図である。

【図2】

移動端末の外観図である。

【図3】

移動端末の機能ブロック図である。

【図4】

移動端末の処理の全体動作フローチャートである。

【図5】

送信処理の動作フローチャートである。

【図6】

通信データのフォーマット図である。

【図7】

IPヘッダとTCPヘッダのフォーマット図である。

【図8】

PPPを用いた発信処理の動作フローチャートである。

【図9】

移動端末通信制御部の動作フローチャート（その1）である。

【図10】

移動端末通信制御部の動作フローチャート（その2）である。

【図11】

移動端末通信制御部の動作フローチャート（その3）である。

【図12】

処理端末登録テーブルのデータ構成図である。

【図13】

文音声認識部の構成図である。

【図14】

音声認識部内の入出力制御部の動作フローチャートである。

【図15】

フォーマット文章作成部の動作フローチャートである。

【図16】

フォーマット文章作成部内の入出力制御部の動作フローチャートである。

【図17】

メール送受信部の動作フローチャートである。

【図18】

FAX送受信部の動作フローチャートである。

【符号の説明】

- | | |
|-----|--------------------|
| 101 | 移動端末 |
| 102 | 無線基地（有線接続装置） |
| 103 | PHS網（公衆電話網、ISDN網） |
| 104 | 移動端末制御ホスト装置 |
| 105 | インターネット |
| 106 | ルータ装置 |
| 107 | LAN（ローカルエリアネットワーク） |
| 108 | 音声制御ホスト装置 |
| 109 | 入力部 |
| 110 | 制御部 |
| 111 | 通信部 |
| 112 | 出力部 |
| 113 | 接続確立部 |
| 114 | ルーティング部 |
| 115 | パケット送受信部 |
| 116 | 移動端末通信制御部 |
| 117 | 文音声認識部 |
| 118 | フォーマット文章作成部 |
| 119 | メール送受信部 |
| 120 | FAX送受信部 |
| 121 | 電話回線 |

201、301	マイク
202、304	カメラ (CCDカメラ)
203、311	LCD表示部
204、308	スピーカ
205、323	無線アンテナ
206、325	ソケット (通信用)
207	ICカードスロット
208	光送受信機 (光通信用)
302、305	A/D変換部
303	マイク制御部
306、313	メモリ
307	カメラ制御部
309	D/A変換部
310	スピーカ制御部
312	LCDドライバ
314	LCD制御部
315	タッチパネル制御部
316	CPU
317	RAM
318	ROM
319	ICカードインタフェース部
320	ICカード
321	通信制御部
322	無線ドライバ
324	有線ドライバ
1301	入力バッファキュー
1302	音声区間検出部
1303	音声分析部
1304	音素認識部

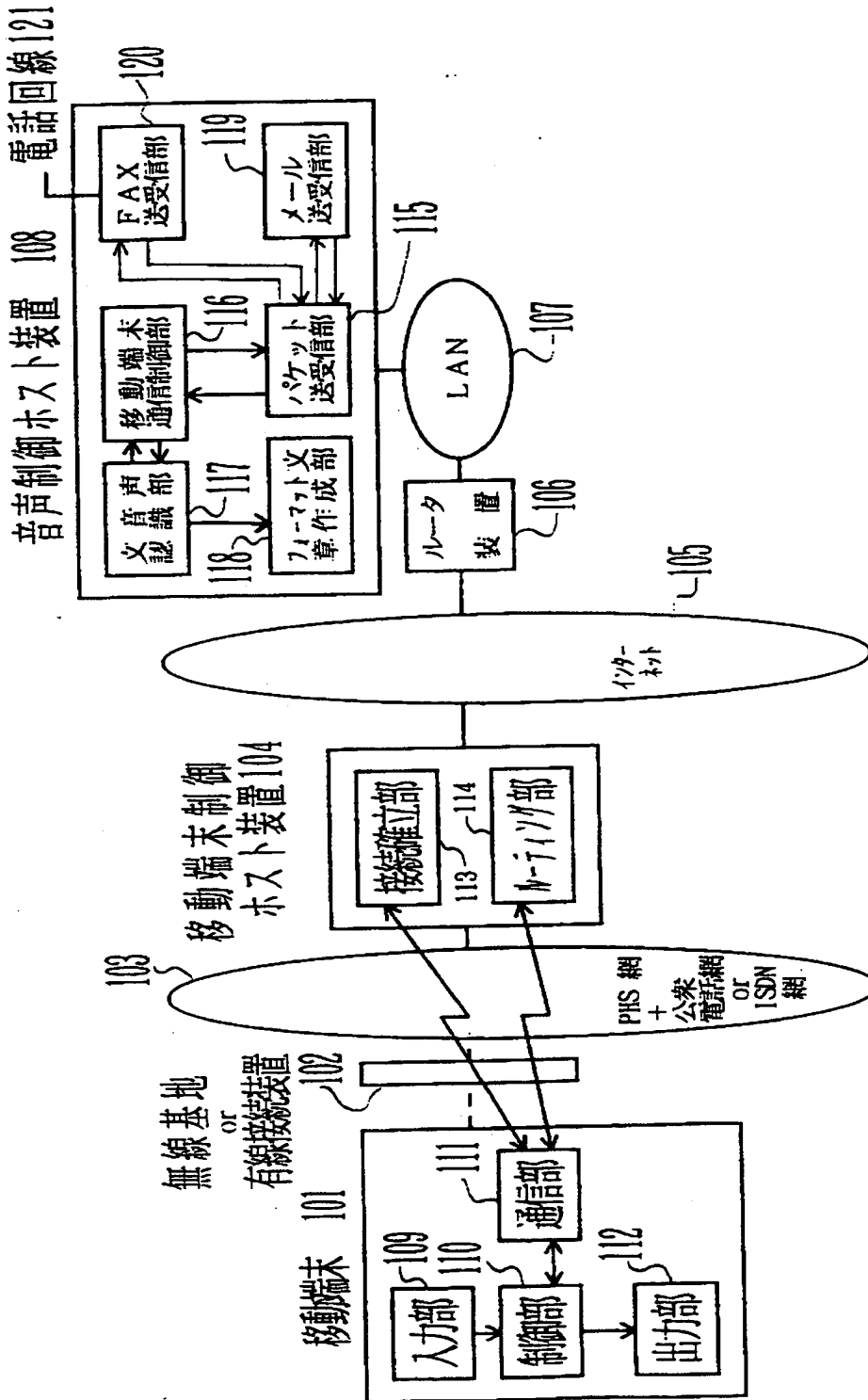
1305	音素標準パターン辞書
1306	単語認識部
1307	文章認識部
1308	出力バッファキュー
1309	入出力制御部
1501	入力バッファキュー
1502	フィールド認識部
1503	フォーマット種類別フィールド辞書
1504	不要語削除部
1505	不要語辞書
1506	フォーマット文章データ作成部
1507	出力バッファキュー
1508	出力バッファキュー
1509	入出力制御部

特平 8-350323

【書類名】 図面

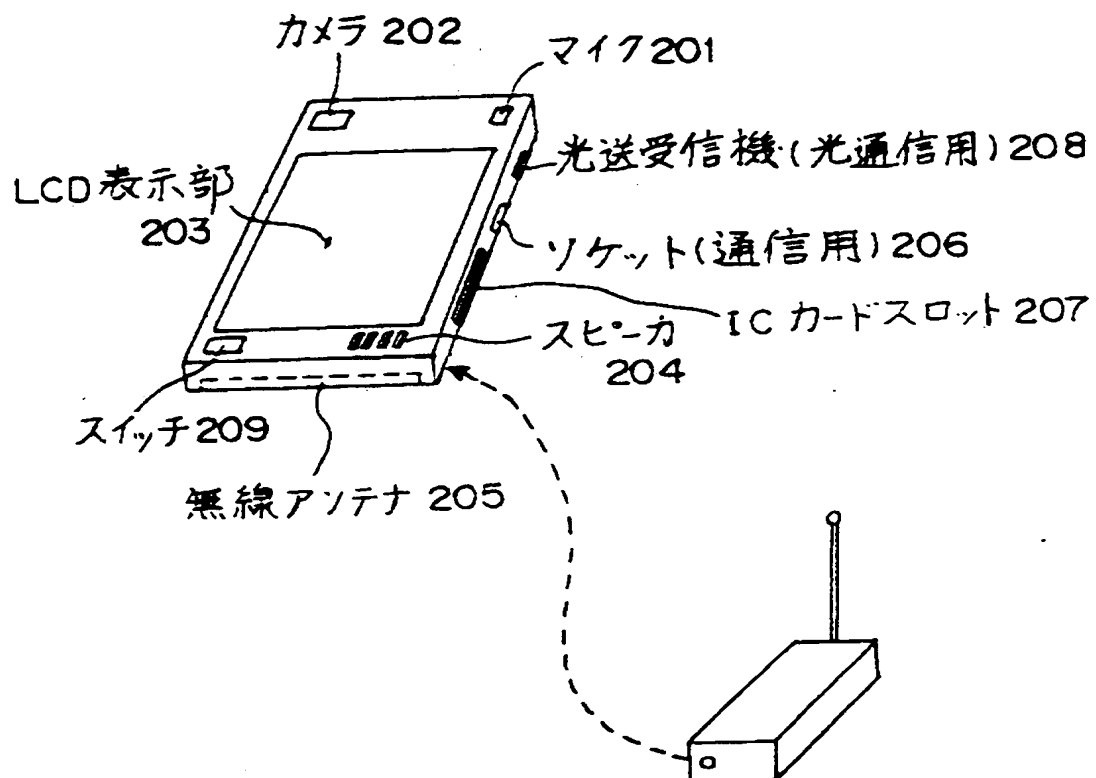
【図1】

全体システム構成図



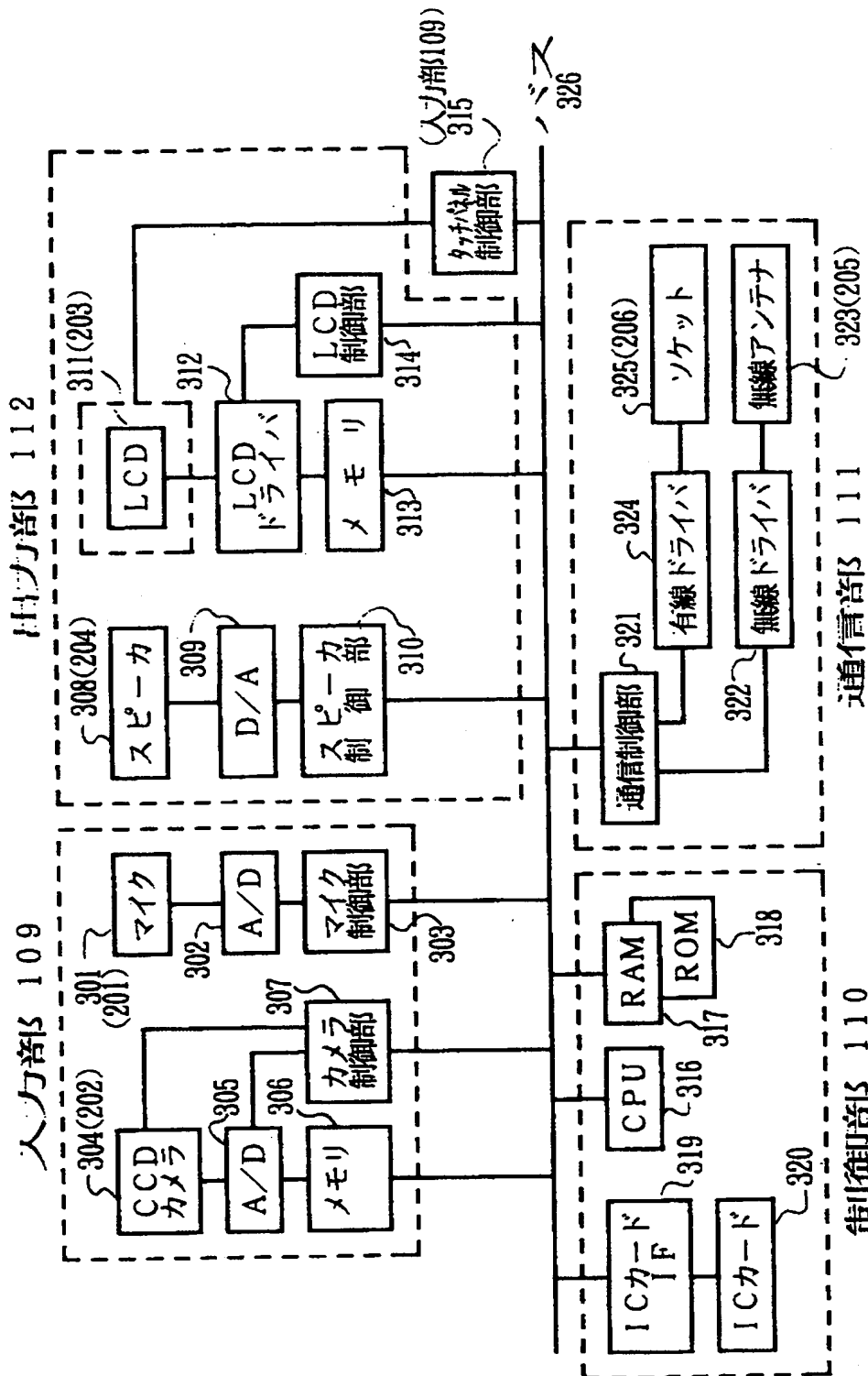
【図2】

移動端末の外観図



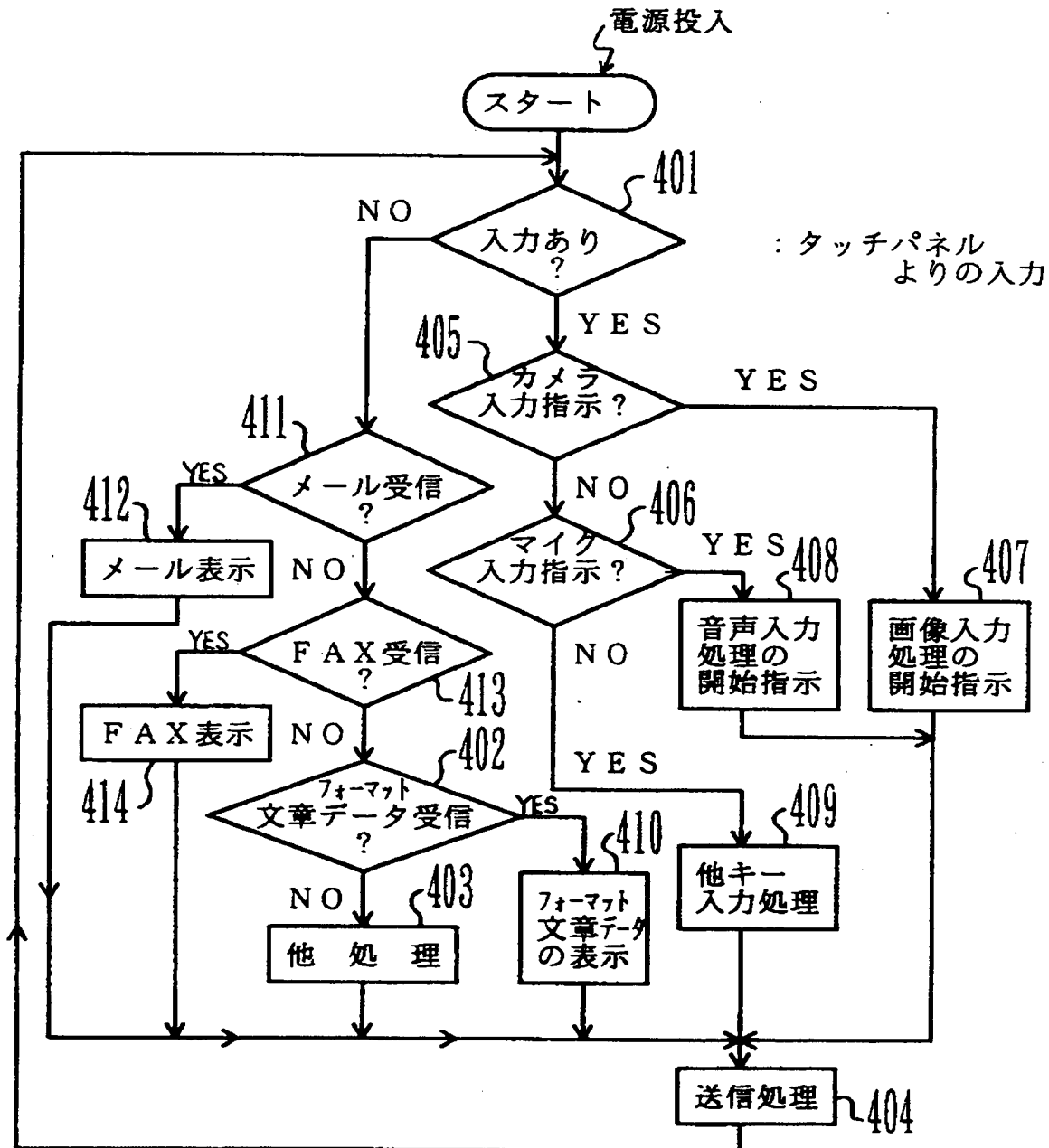
【図3】

移動端末の機能ブロック図



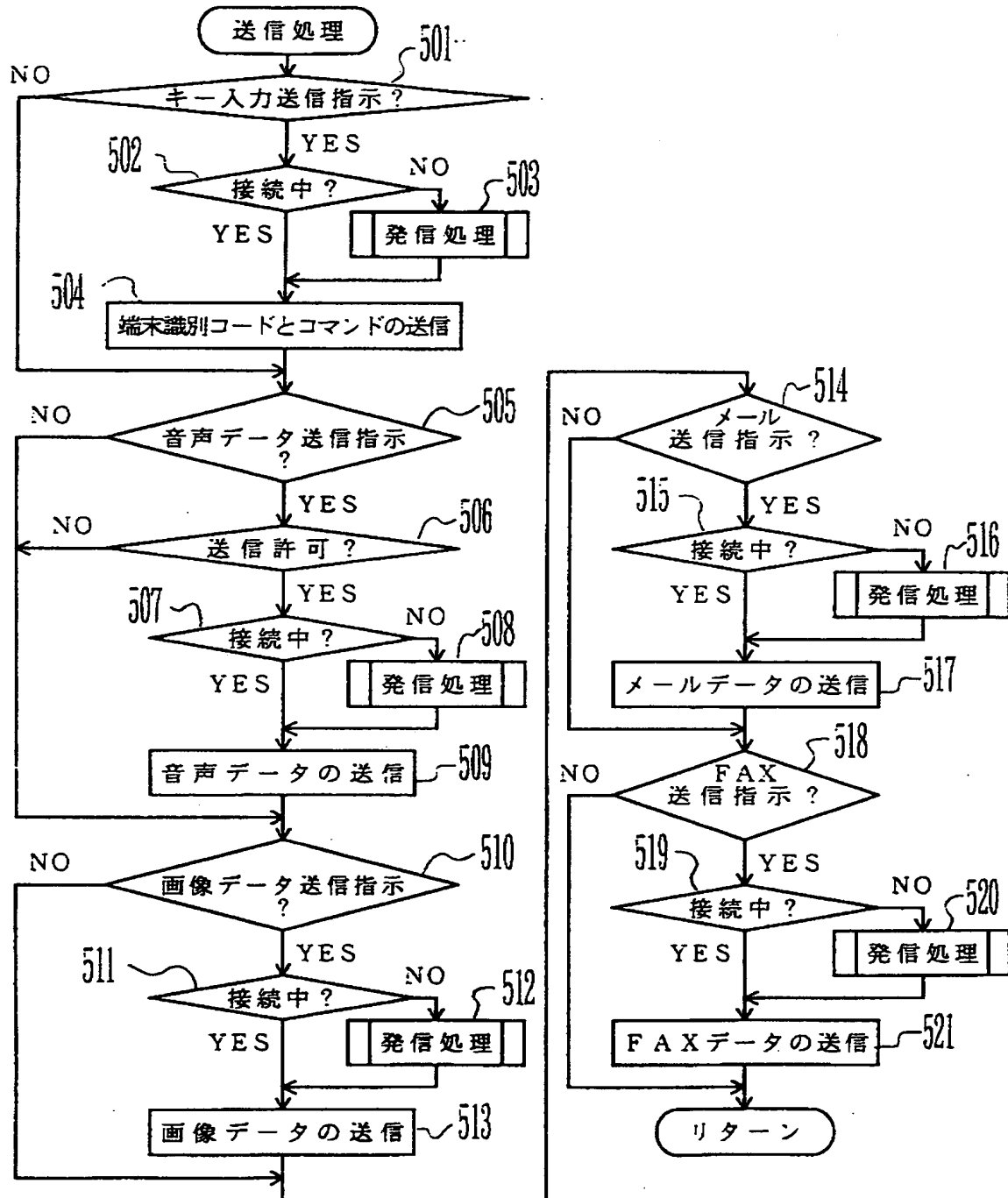
【図4】

移動端末の処理の全体動作フローチャート



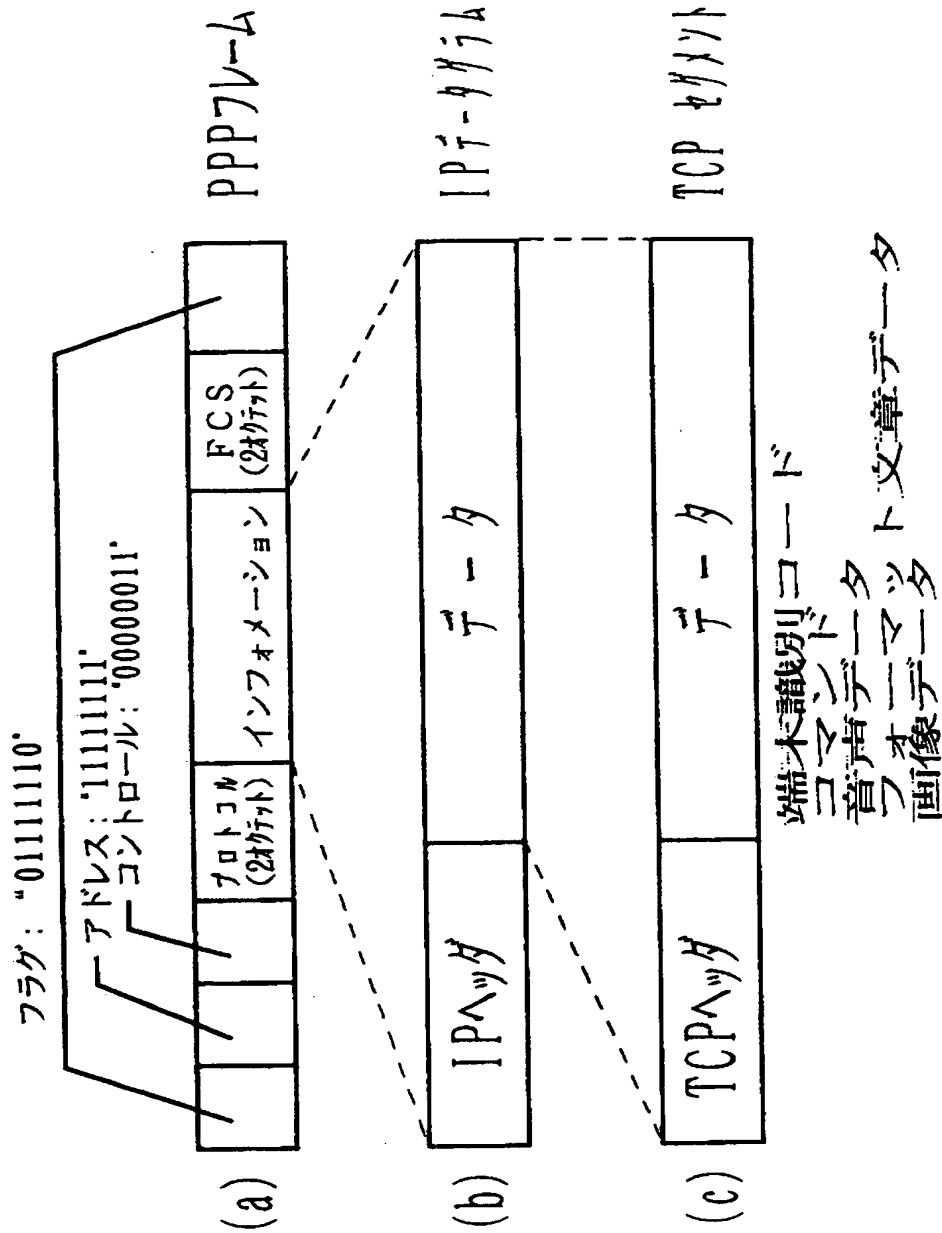
【図5】

送信処理の動作フローチャート



【図6】

通信データのフォーマット図



【図7】

IPヘッダとTCPヘッダのフォーマット図

(a) IPヘッダ

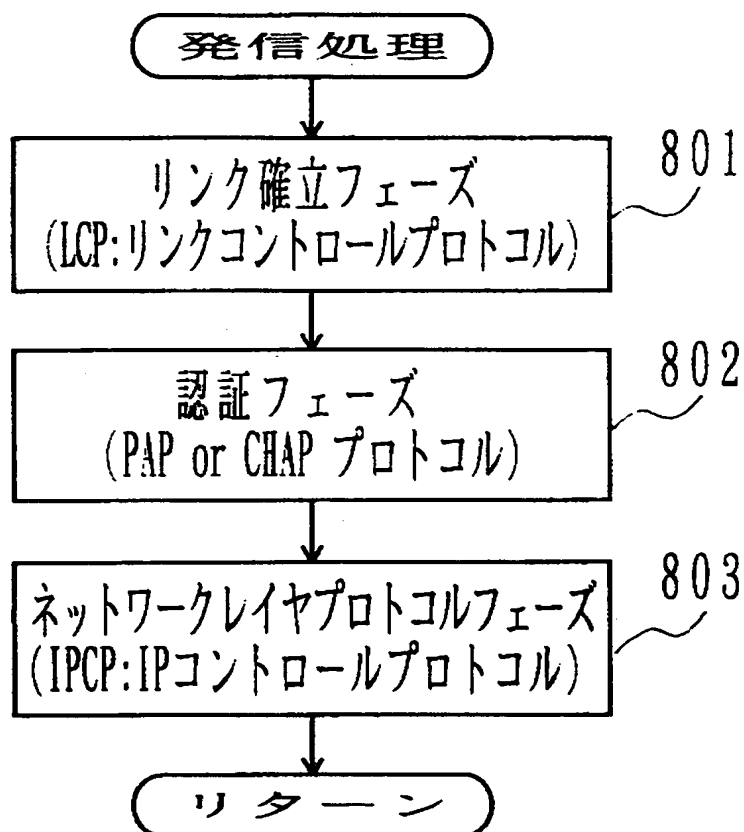
第1ワード	バージョン	ヘッダ長	サービスの種類	IPデータグラムの全長	
第2ワード	識別番号			フラグ列	フラグメントのオフセット
第3ワード	生存期間		プロトコル	ヘッダのチェックサム	
第4ワード	送信元IPアドレス				
第5ワード	宛先IPアドレス				
第6ワード	IPオプション				パディング

(b) TCPヘッダ

第1ワード	送信元ポート番号		宛先ポート番号	
第2ワード	シーケンス番号			
第3ワード	確認応答番号			
第4ワード	ヘッダ長	予約済	フラグ列	ウィンドウ
第5ワード	チェックサム			緊急ポインタ
第6ワード	オプション			パディング

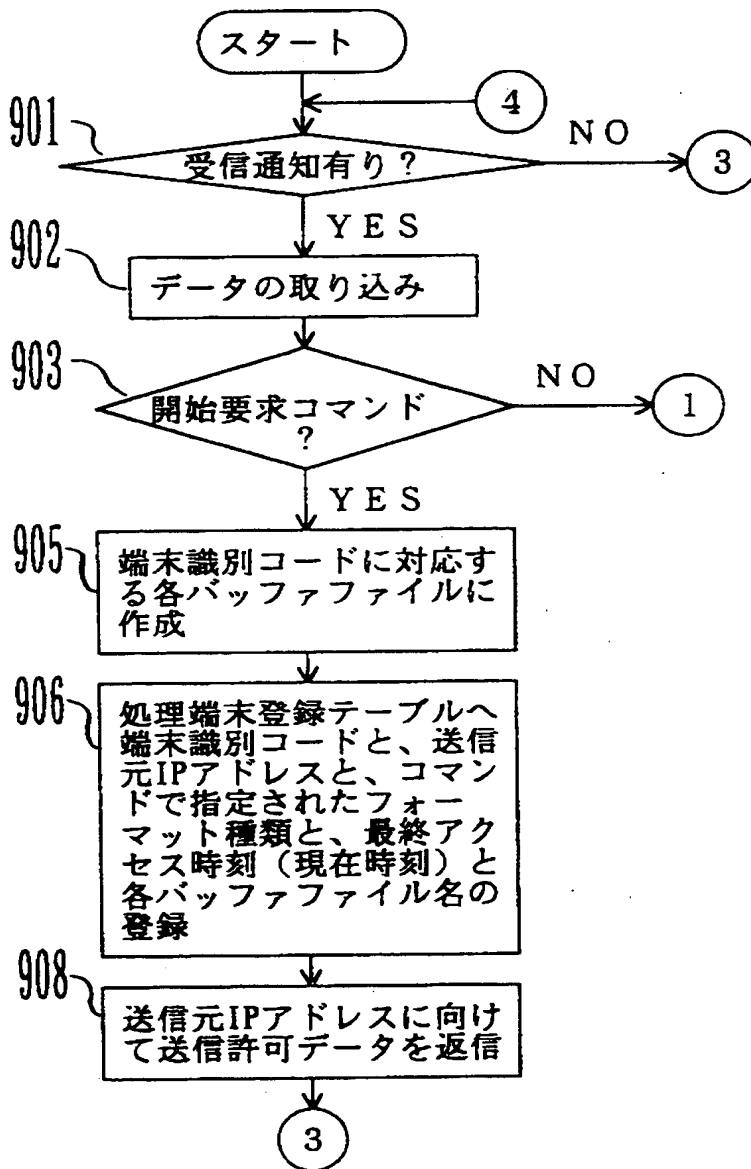
【図 8】

PPPを用いた発信処理の動作フローチャート



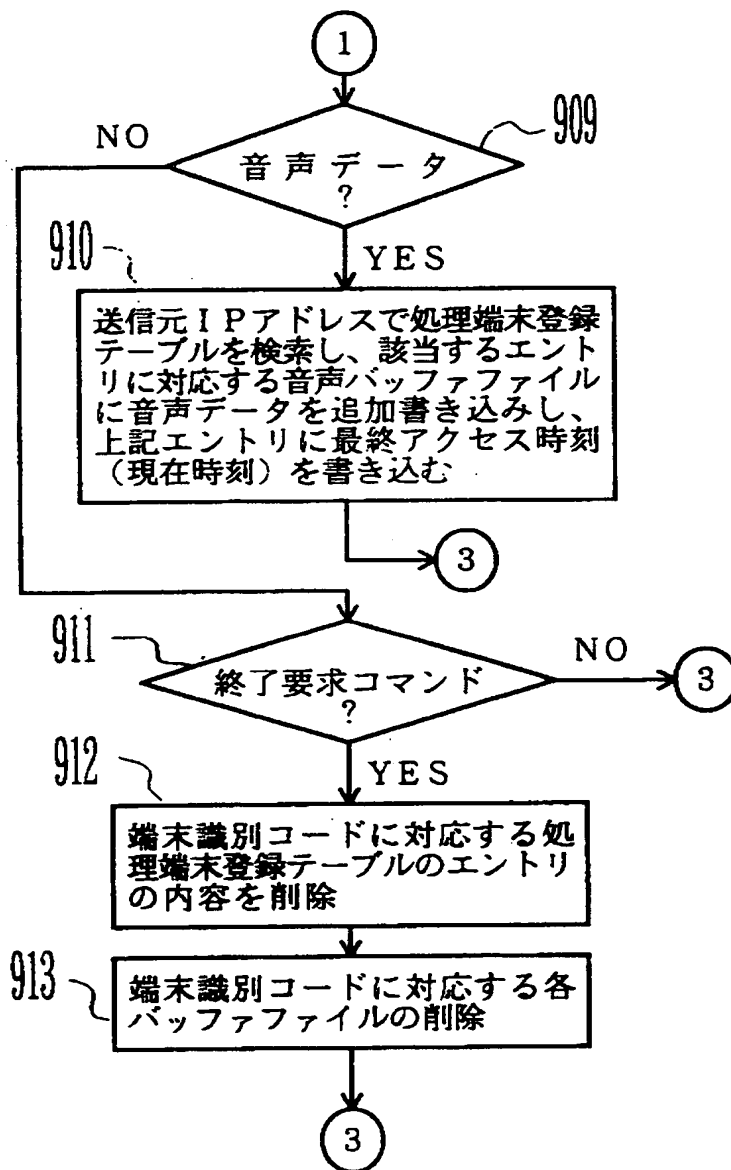
【図9】

移動端末通信制御部の動作フローチャート（その1）



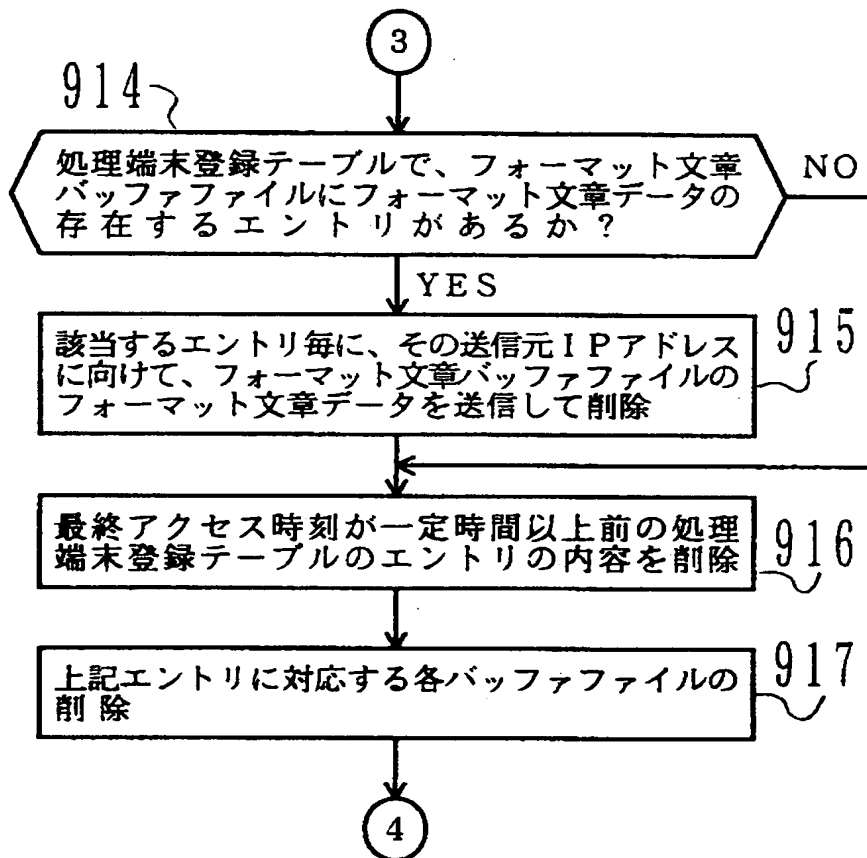
【図10】

移動端末通信制御部の動作フローチャート（その2）



【図11】

移動端末通信制御部の動作フローチャート（その3）



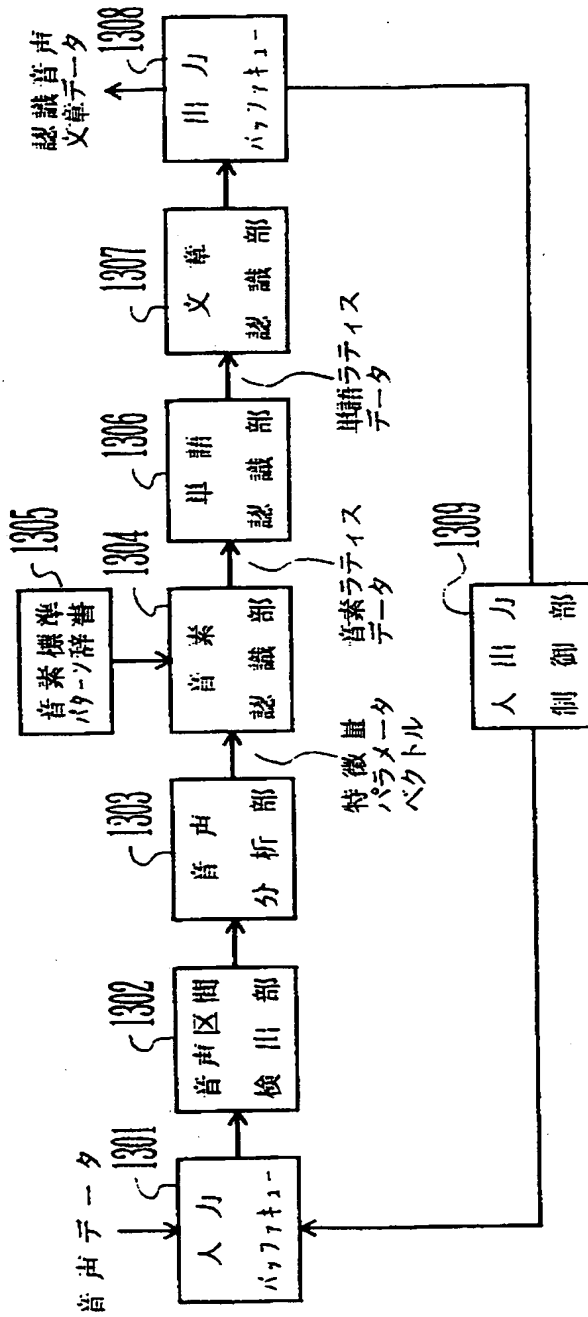
【図12】

処理端末登録テーブルのデータ構成図

端末識別コード	送信元IPアドレス	フォーマット種類	最終アクセス時刻	音声ファイル名	文章ファイル名	フォーマット文章ファイル名
...

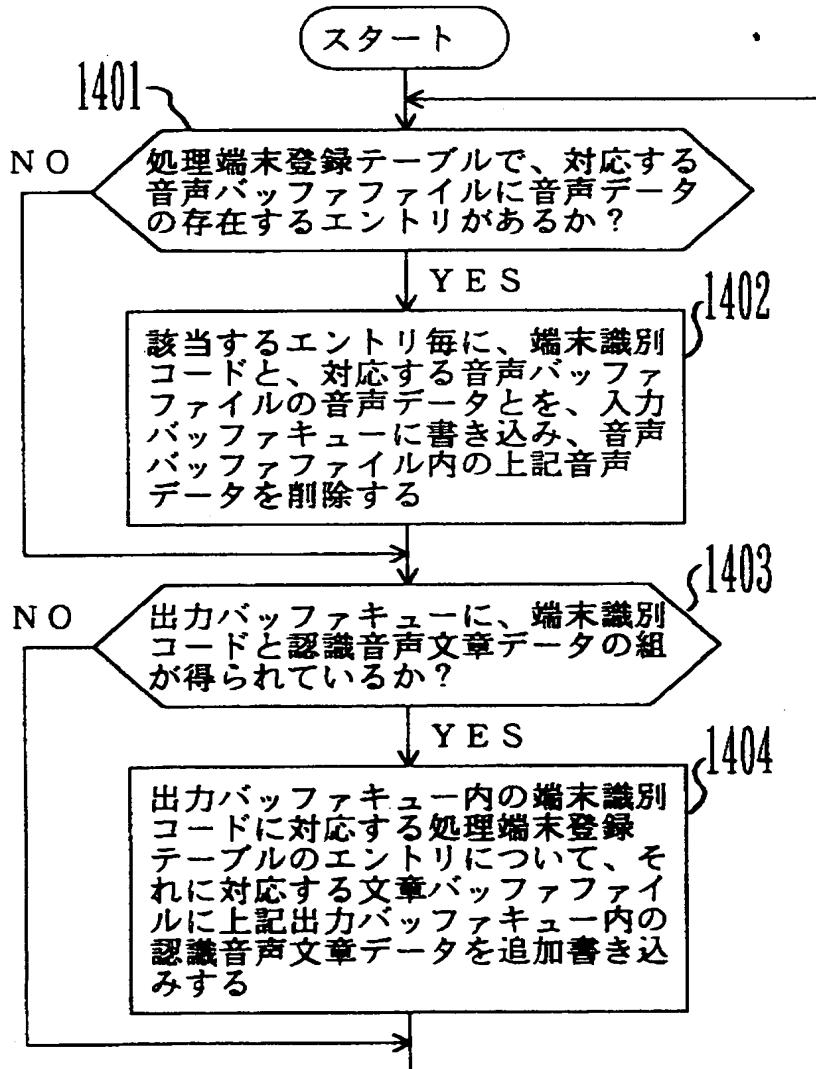
【図13】

文音声認識部の構成図



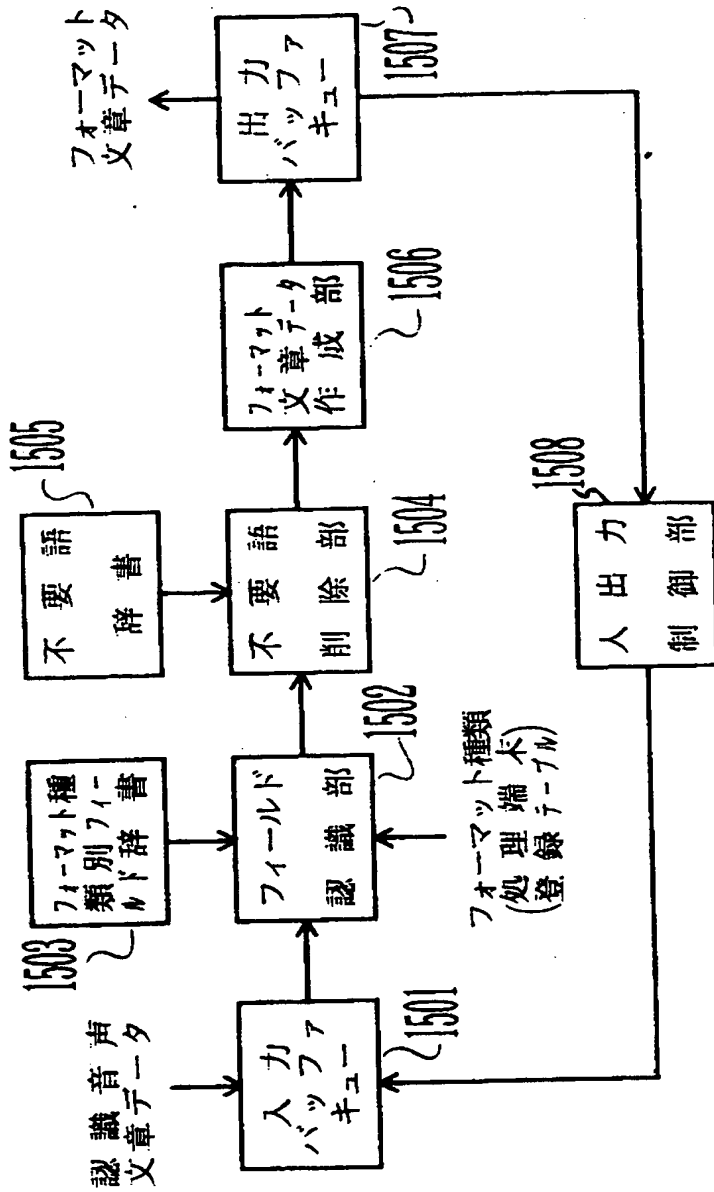
【図14】

文音声認識部内の入力制御部の動作フローチャート



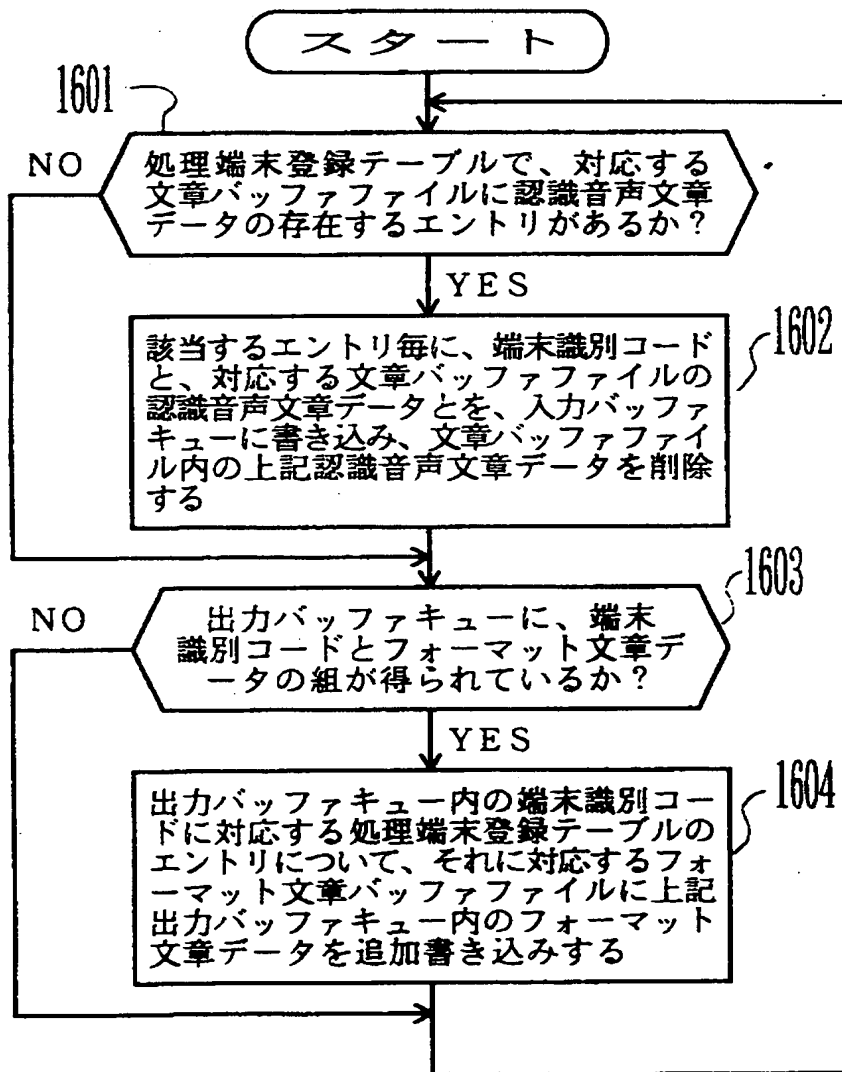
【図15】

フォーマット文章作成部



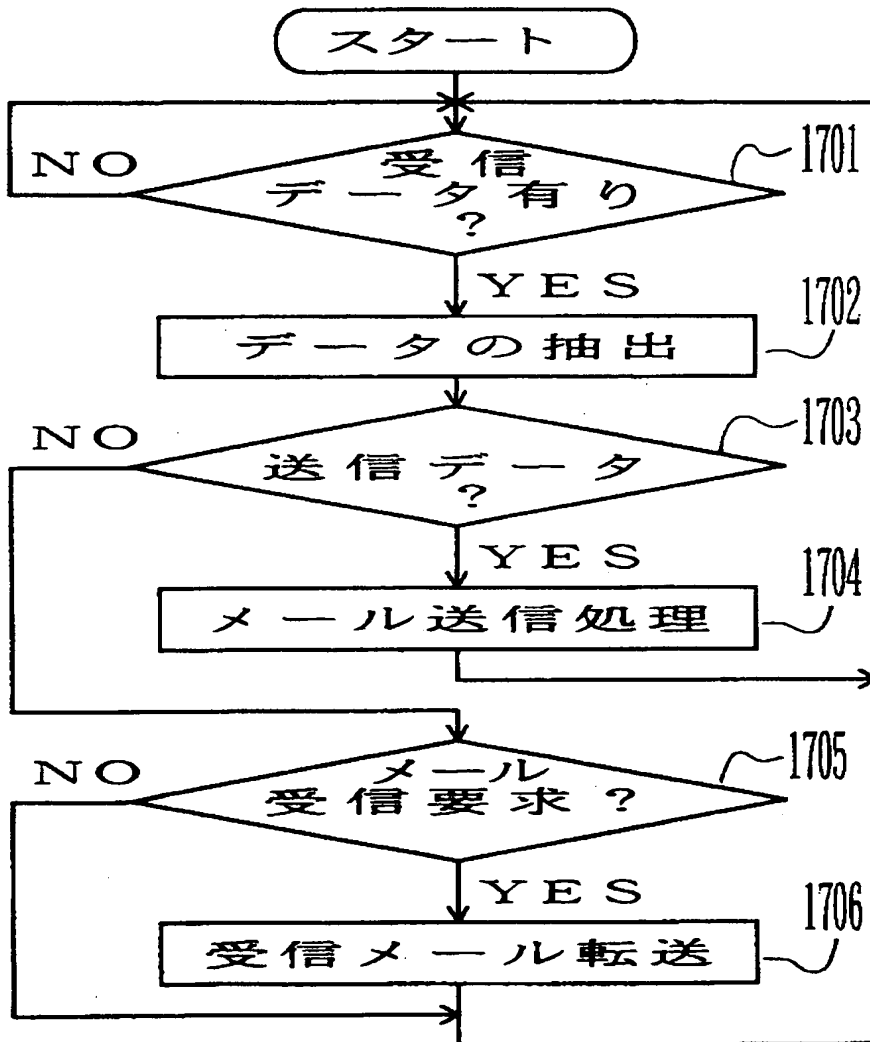
【図16】

フォーマット文章作成部内の入出力制御部の動作フローチャート



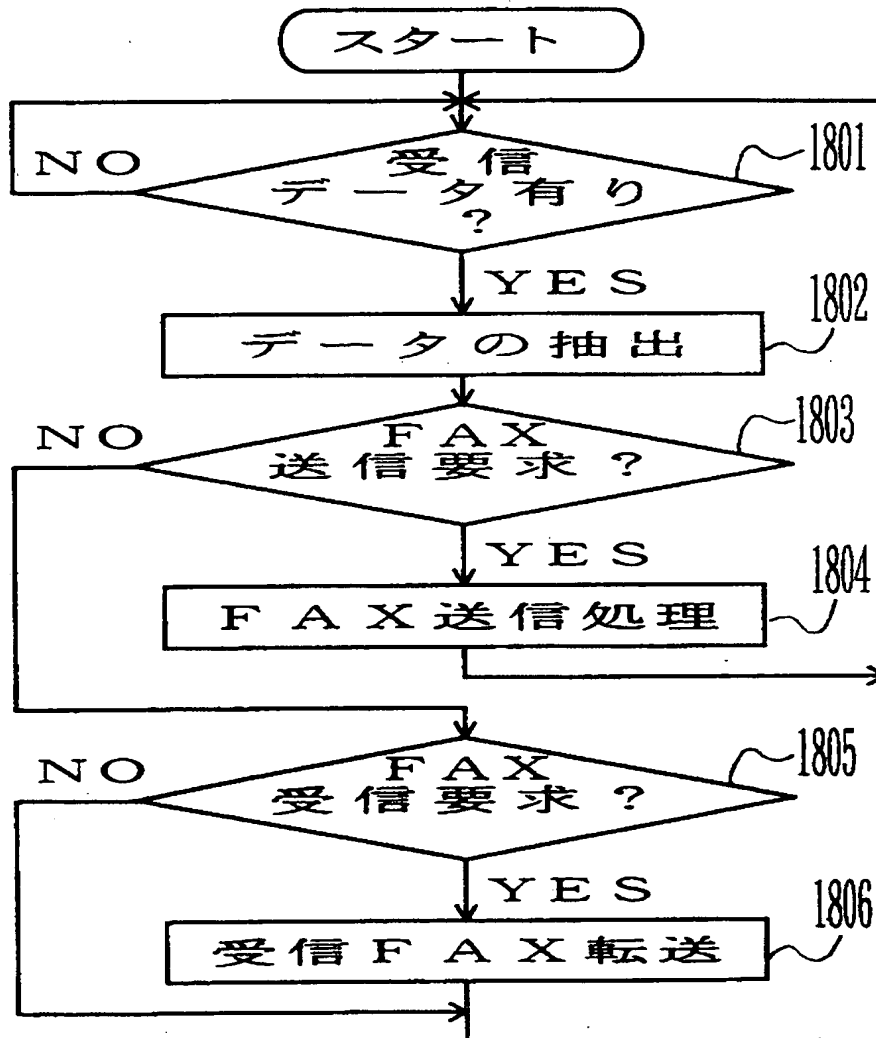
【図17】

メール送受信部の動作フローチャート



【図18】

FAX送受信部の動作フローチャート



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 移動端末を用いた通信環境において、音声認識機能／電子メール・FAX自動作成機能を実現可能にすることにある。

【解決手段】 移動端末101において、入力部109から入力された音声信号が、制御部110及び通信部111からPHS網103に送出され、そこから移動端末制御ホスト装置104及びインターネット105を介して、音声制御ホスト装置108に送られる。この音声信号は、同装置内のパケット送受信部115を介して移動端末通信制御部116で受信され、文音声認識部117で認識された後、その音声の会話内容を示す電子メール又はFAX草稿データがフォーマット文章作成部118で作成される。そのデータは、移動端末101に返送され、通信部111を介して制御部110で受信され、出力部112で表示される。ユーザは、適当な編集を加えた後、メール送受信部119又はFAX送受信部120に対して、清書された電子メール又はFAXデータの送信を依頼する。

【選択図】 図1

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000001443

【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

【氏名又は名称】 カシオ計算機株式会社

【代理人】 申請人

【識別番号】 100093632

【住所又は居所】 東京都千代田区麹町6丁目1番18号 麹町共栄ビ
ル602

【氏名又は名称】 阪本 紀康

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001443]

1. 変更年月日 1990年 8月10日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

氏 名 カシオ計算機株式会社